

547
157

0^m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{3m} 1 2 3 4 5

始



日本產業協會編纂

全國副業品取引便覽

大正

15. 4. 15

内交

發行所 日本產業協會

547-157

緒言

我國現下の經濟界を見るに、財界の不振は著しく國民の生活を脅かし、一般家庭は生活の困難を感じて居るのであるが、就中農村、漁村等では甚大なる打撃を蒙つてゐるのである。

國民の大多數を占めて居る我國農家の産業は概して規模狭少にして、主業に依る収入のみでは經濟を維持することは困難であるが、而も時勢の進歩に伴ひ、衣食住其他の支出益々増大し、其の生活は困憊となり、農村は疲弊するに至るのであるが、之に備へる爲には何等かの適當な業務を必要とするのである、即ち副業は其の最も適切なるものとして擧げられてゐる。

副業の必要なることは既に周知のことであり、朝野共に之が奨励に努めて居るので其の生産も年と共に増加して來たが、何分にも多種多様にして生産にも販賣にも他の商品に比し工夫を要する次第である。副業品は主業の餘暇に製産する關係上季節的に營む生産數量に多寡があつたり、形質整一を缺ぐやうなことがあり勝であるので、之等は共同組織の下に經營を爲し、其缺陷を補ふと共に、販賣に付ては他の商品よりも一層の工夫と努力を必要とするのである。然るに従來の情況を見るに、副業品の相場

の如きは一般に知られて居るものが少なく、且市場の開拓、販路の擴張等も十分でなかつたやうに思はれるのである。

斯うしたいろ／＼の缺陷を補ふ爲には、生産者と市場、生産者と問屋との連絡をつけて取引の安全を期せなければならぬのであるが、今次東京上野公園不忍池畔に開催せられたる全國副業展覽會は實に之が實行に對し最も好い機會を與へられたのである全國を網羅せる各種の生産品は、大見本市の觀を呈し、加ふるに全國特産物即賣館、參考館は主要生産品の紹介、取引の案内等を明確に示して居るので、該展覽會は實に副業品の販賣に付ては絶好の好機會であつたのである。

斯かる氣運に際會して、一面此全國的の出品に係る副業生産品を調査し、之を記録に止むると共に、主要市場の狀況、取引に關する必要な事項等を蒐集輯録して、江湖の參考に供することは、時宜を得たること、信じ、農林省各道廳府縣及府縣農會販賣斡旋所其の他の御力添を頂き、茲に全國副業品取引便覽を完成することが出來たのである。幸にも此書が副業獎勵上に裨益するを得ば編者の欣幸とする所である。

大正十五年三月

編者識

全國副業品取引便覽目次

一、副業品生産に就て

- 一、市場生産と副業品 一
- 二、副業品團體生産 四

二、副業品取引の一般

- 一、地方に於ける取引 六
- 二、大集散又は消費地に於ける取引 六
- 三、集散地又は消費地に於ける取引の種類 四
- 四、取引の改善 八
- 五、販賣斡旋所 九

三、主要市場に於ける副業品の概況

一、糸	瓜	二、梅	干	一
三、傘	瓢	四、羊齒製	品	三
五、干	紙	六、麻	田	三
七、和	粉	八、百	合	三
九、蕪	茸	一〇、廣	粉	五
一一、推	皮	一二、澤	漬	六
一三、兎、兎毛	皮	一四、搗	庵	八
一五、干	柿	一六、切干	大	九
一七、切干	甘藷	一八、模造	バナマ	二

四、蔬菜果實の販賣方法……………五六〇

一、委託販賣……………表〇

二、買付販賣……………表〇

三、先物販賣……………表一

四、最低價格保證の委託販賣……………表二

五、各種販賣に關する契約證……………表三

附 録

一、小運送料金表……………一

二、貨車積込表……………三

三、貨物等級量表……………五

四、東京市内果實卸賣市場一覽……………一〇

五、東京市内副業關係品問屋一覽……………一三

六、大阪市内副業關係品問屋一覽……………六四

七、神戸市内副業關係品問屋一覽……………九二

八、名古屋市内副業關係品問屋一覽……………一〇〇

九、特産物製造販賣者案内……………一〇三

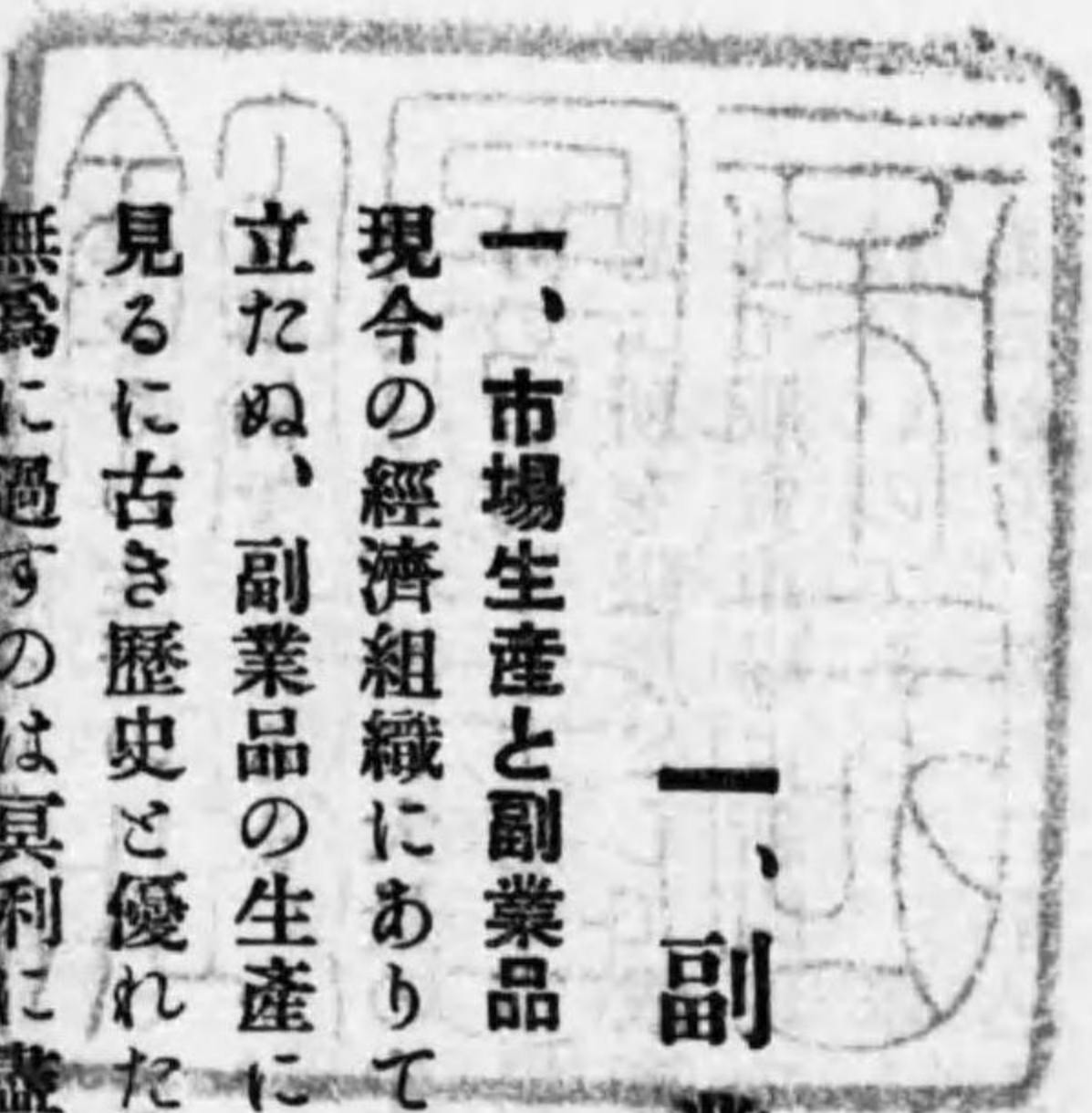
全國副業品取引便覽

日本産業協會編

一、副業品生産に就て

一、市場生産と副業品

現今の經濟組織にありては、凡て生産は販賣を目的として、市場生産でなければ成り立たぬ、副業品の生産にも此の原則を無視する事が出来ぬ、我が國副業生産の現状を見るに古き歴史と優れた技術とを有する副業品の生産者も多いのであるが、然し又只無爲に過すのは冥利に盡きると云ふ様な甚だ尊敬すべき考であるけれども、只それだけ何の計劃もなくして、家庭經濟時代的な古き考へで、漫然と製作して販賣を試みると云ふ様な類も尠くないのである、然しこれは明に時代遅れの生産であつて、冥利を欲してなした事も酬はれずして終る事は明白である。副業品の生産に當つては、工業生産にその範を取つて十分努力するのてなかつたなら



ば、成功は覺束ないのである。
工業の生産には、

- 一、生産費の可及的低減を計る事。
- 二、相當統一ある性質の品物を相當多量に生産する事。
- 三、生産品を需用者の嗜好に合致せしめる事。

等をその生産の目標として居る様であるが、副業品の生産に當つても大いに儀とすべき事柄ではあるまいか、良い品物を安く供給する事が競争上有利である事は申す迄もあるまい。次に大量の生産と云ふ事は別に無限を意味するのではないのであつて、自分の目的として居る市場の消費量を測定し、自分の生産品を相當に行き亘らせ得ると思ふ所を限度として成産の計畫を立てると云ふ事である。

凡て販賣市場は新開地であるとか、又は特別な事情がないならば、需用の處女地ではないのであつて、寧ろ需用と供給とは平衡の状態にあると云つた方がよろしい位であるから、新たに割込ふとするに就ては、相應の實力の準備がなければ叶はぬのであるが、數量が相當量あると云ふ事なども、その一條件であるのである、近時生産者より直接消費者へと、云ふ様な聲も著しく高くなつて來た様であるが、例へば繩の様なものにしても、或る大口需用者の半ヶ年分も供給し得ぬ様では取引のなり立ち様がない

く、幸に一時取引が開始せられても競争者に直ぐ押されてしまはなくてはならぬのである。又消費地なり大集散地なりの確實な商人と取引を開始する事を望むにしても、相當の量を出し得ないならば、決して満足な取引は繼續せられる道理がないのであつて、炯眼な商人は初めから之を見て取つて色よい應對をせぬのが普通である。これは商人としては決して無理からぬ事である、商人にはそれぞれ得意先があるのであるが、その取引先なり得意先の所用に應じ得ぬならば、その得意先を失はねばならぬのである。然し或る有利な點があつて新たに商品を仕入れるに就ては、得意先は無限でないのであるから、従來の仕入先を見限つて、新たな仕入先と取引を開始しなければならぬのであるが、新たな仕入先にして確實な供給をなさぬならば、結局は不利を招く事になるから確實で相當量纏まつたものゝ供給力あるのでなければ一流の商店とは取引出來ぬのである。

又商人が新たな荷物を引受けるに就ては、古き得意に向けるか、又新たに需用者を見付けるかしなければならぬのであつて、相當確實な需用者を得る迄には、或る程度の犠牲と努力とをしなければならぬのであるが、供給量が少なかつたり、不確實であつたりする場合には、費した所を償い得ぬから、初めからそんなものに努力するものがないのも、又無理からぬ事と云はねばならぬ。

次に消費市場には夫々嗜好がある、例へば繩ならば物を緊縛し得れば足ると云つたものでなくして品質の優れて居らねばならぬのは勿論、外觀手觸り荷造りと云つた様な極めて實用には縁遠い様な事迄が買手の心に作用するのであつて、おのが嗜好に投じ得たか、否かは品物の賣行に關する事甚だ大きいから、十分に研究する事が肝要である、又嗜好と云ふものは一定不變なものでなく、時には驚く程移り變りがあるのである、副業品でも繩とか箆とか云ふ様なものは、嗜好の變遷が甚しくなからふけれども、農民美術品や工藝的な生産品には之れある事を豫め覺悟して常に流行を研究すると共に、一步進んで流行を造ると云ふ具合に迄進みたいものである。

二、副業品の団体生産

元來副業と云ふものは、農閑なり餘暇なりを善用して、農家の經濟に資する點に價值があるのであつて、一般的には副業と見られる生産でもそれを專業にするならば、その人に取つては最早それは副業でないのである。斯の如く副業は、性質上斷片的になり勝ちな製産であるから、先項に述べた目標に合致するには、工業生産以上に苦心しなければならぬのである。今迄の様に個々別々に生産に従事する様では、例へば販賣を共同にするにしても、十分な結果は得られぬのである、それは品質が統一しないと云ふ様な缺點があるからである、であるから生産から共同で以てすると云ふ様になら

ねばならぬのである、副業生産に就て缺點であるのは、機械の應用の足らぬ事であるが、共同するならば個人に求め得ぬ道具をも求め得て、生産の品質及量の上に好結果を齎らし得るのは明な事である、先にも述べた如く生産は市場生産でなければならぬのであるが、市場の視察技術の傳習と云ふ様な事で、個人では出來得ぬ事でも團體の力によつてなし遂げる事が出來るのである、其の他生品の検査を施行して品質の向上聲價の發揚を計るにしても、共同するのでなかつたらば實行困難である。

更に又先にも述べた通り、生産の繼續的出荷を企たると云ふ様な場合には、貯藏場の設置及管理生産品に對する一時貸付等に資金を要する事多いのであるが、斯かる事の實行は共同の力に待ねばならぬ、更に進んで生産物の價格を調節すると云ふ様な事に至つては尙更の事である、その生産に於ても單に機械の共同利用と云ふばかりでなく生産を分業にまで進めるならば、一層面白いであらふ。

元來農家の副業に就ては、算盤が取れぬと云ふ聲を往々聞くのであるが、之はその經濟の悪い事も一因であるのであるから、經營の方法に工夫を加へる事は最も有意義な事である、團體共同生産の如き實行すべき方法の一つであらうと思ふ。單に團體と云ふても色々あるが、生産にしろ、販賣にしろ、更に原料の購入利器の利用にしろ、産業組合法による組合を組織して本氣で事業を進めるのがよろしいのである。

二、副業品取引の一般

一、地方に於ける取引

副業品は前掲の如く、種類廣汎であつて、其の取引の状況も一概に論ずる事は出来ぬのであるが、販賣人の直接産地買出しや、生産者自身、農閑又は餘暇を利用して附近の都市へ携帶販賣するなどは、或る種の副業品に就て可成盛に行はれる所であるが、大量遠地出荷の取引に至つては、近時生産者又は生産組合、其他生産者の團體によつて、直接大消費地の商人と取引する傾向が著しくなつたけれども、従來の商人による取引に比べては未だ云ふに足らぬのである、商人による取引と云ふのは地方問屋、又は仲買人が買集商の買集めたるもの、又は直接生産者より買取り、大量に取り纏めて消費地又は大集散地の商人の買付に應じ、又は委託出荷をなすのを指すのである。

二、大集散地又は消費地に於ける取引

大集散地又は消費地にありては、夫々取扱商人、又は問屋があつて産地に買付、又は産地出荷の委託を受けて、小賣商人大々需用者又は地方消費地商人に賣り渡すのである。

今右の地方及中央の取引を圖式を以て示すならば、大體次の如くである。



三、集散地又は消費地に於ける取引の種類

イ、成行依託販賣

産地の荷主より信用確實と認められた問屋に對し、成行きに任せて出荷し來たるもので、問屋は其の日の相場の高下を不問販賣して仕切りを作成するもの、即ち川魚の如きは或は一度成行相場にて仕切つて、多少の手数を加へて販賣する生鶏生豚の如きものもある。前者は貯藏容易で賣行活潑でないものに多く、後者は生き物に多く見る取引方法である。

ロ、指値依託販賣

木炭又は乾物の一部には此の種の取引をなす品物がある、即ち品物の販賣は依託するけれども、その賣値を指定する販賣の方法である、相場不引合である場合は、一度荷受けして後交渉する事もあるが、關係の浅い荷主に對しては即時荷受けを拒絶するも

のもある。委託販賣の場合は、一定の間屋口銭を仕切金中より差引き問屋の利益とするのである。

ハ、買付

問屋は又は取扱商人は、手紙、電報又は直商談で買取を契約し、荷主はその契約に従つて出荷し、買付者は之に對し契約の相場に仕切書を作成して送金し、又は手渡しするのである。

四、取引の改善

取引方法の大略は右述べた所であるが、扨て實際それ等の方法によつて行はれて居る個々の取引が、満足なものであるかと云ふに、決して満足安心なものではないのである。殊に副業品を扱ふ商人は一ヶ所に集團せず、市内各地に散在して居り、相對取引が多いが故に、之が取引には長い經驗による熟練と、抜目のない商方とを要するのである。近時消費地又は集散地商人と直接取引する傾向が著しくなつたが、商人側に於ては是等直接出荷者を素人扱いにして、稍々ともすれば瞞着せんするが如き、不誠意の態度に出づるものがあり、出荷者自身に於ては取引に馴れぬ爲と、一般に見聞の狭きために、自己の出荷を過信するの風あると、商勢を察知して處置するの商才に乏しきと、商習慣及び商業道德の理解乏しき等の爲に、商機を失して自ら損失と商人の侮

りを招くのみでなく、相手商人へも迷惑をかける場合が少なくないのである。故にかゝるものに對しては、其の取引を補助する機關があれば、誠に便利であつて、出荷者(直接)に對して利益あるばかりでなく、その取引相手である商人にも又有利であるのである。

五、販賣斡旋所

此の目的で全國六ヶ所に各道府縣農會が所屬を定めて、販賣斡旋所なる機關を大正七、八年頃設立して、農産品副業品の販賣を斡旋し、時々の市況を調査し、商人の信用を調査し、取引上に起つた問題の解決に盡力する等の仕事をなさしめて居るのである、近時この機關を利用するものが多くなつた。全國に於ける所在地、所屬道府縣農會を表示すれば次の通りである。

所名	設立年度	所在地
東部道縣農會聯合	大正八年	東京市神田區旅籠町一丁目卅四
同 横濱販賣斡旋所	同	横濱市岡野町神奈川縣農會内
同 札幌販賣斡旋所	大正十三年	札幌北四條西七丁目

中部府縣 農會聯合	大阪販賣幹旋所	大阪市西區江ノ子島府農會内
同	神戸販賣幹旋所	神戸市下山手通四丁目
九州各縣 農會聯合	門司販賣幹旋所	門司市仲町三ノ一六七九

幹旋所規定、左記は東京販賣幹旋所の規定であるが讀者の參考に供するものである。

手数料、使用料及實費辨償規則

- 第一條 農産物の販賣の幹旋は本會か一道十七縣農會の聯合に係る東京販賣幹旋所を主宰中は其事業として之を行ひ同所規定の手数料を徴收す。
- 第二條 農具の使用料は、之を使用し及修理するに要する直接の費用を標準として、會長臨機之を定む。
- 第三條 設計、評價、鑑定に關する實費の辨償は、別に規定せるものを除くの外之に要する直接の費用を標準として、會長臨機之を定む。
- 第四條 前二條の料金は其の處分を前納せしむることあるべし。

三、主要市場に於ける副業品の概況

一、糸 瓜 (横濱)

産地 輸指向きものは静岡産に限るの觀あり、群馬、滋賀、廣島、宮崎、京都の各地よりも産するが静岡物に比べて品位劣り内地向とせらる、産額は年により大差あり三百萬個より一千万個で、内地消費高は四五十萬個垢擦靴下敷、玩具浴室用マツト等に用ひらる。

貿易 英國、獨逸、佛蘭西、米國に輸出せられ、一ケ年五六百萬本を唱へられ、横濱、神戸二港より多く船積みせらる、輸出物の主要産地は静岡縣濱松附近である、輸出品の名稱、寸法、格付は次の通りである、

名柄	寸法	格付
六番	六一—八吋	四錢五厘安
五番	八一—十吋	三錢安
四番	一〇—一二吋	一錢五厘安
三番	一二—一四吋	標準
二番	一四—十六吋	一錢高
一番	一六—一八吋	二錢高

取扱問屋 神戸市磯上通八丁目 長岡支店。

二、梅 干

産地 東京へ出荷する主要産地は紀州、遠州、上總、相州地方にして、大阪は紀州、大和泉州、城州、豊能地であり、關門市場では、萩岩國、大島等である、一度各市場へ入荷したものの内、東京約一萬樽、大阪一萬二千樽、關門三百樽消費するのみで、他は各他府縣朝鮮支那に再移輸出される。出廻期節は、六月下旬頃から、七月、八月に多く、次第に減するのが普通である。問屋 別項問屋名簿参照。

三、傘 (東京、大阪兩市場)

産地 東京へ出荷する地方は岐阜縣加納町、和歌山縣、福岡縣久留米市、三重縣山田市、同上野町、大阪市場へ出荷する地方も大同小異である。

取引上の銘柄 江戸傘、奴傘、番傘、日傘、小供傘。

取扱問屋名 別項名簿参照。

四、羊齒製品 (大阪市場)

産地 兵庫、阿波、高松、伊豫。

入荷期節 一、二、三、四、九、一二月最も多し。

仕向先 東京、北海道、臺灣。

取扱問屋 別項名簿参照。

五、干 瓢 (東京、大阪兩市場)

産地 東京大阪共にその仕入地は栃木、茨城の二縣である。

入荷期節 七月下旬より九月頃迄最も多く入荷を見、翌年五月頃少量宛入荷を見る。

入荷數量 東京へは一萬五千捆乃至二萬捆の入荷を見、その九割は市内で消費せられ、大阪へは三萬七八千捆の入荷あり、八千捆の市内消費の外は中國、九州、滿鮮、布哇等へ再輸出せられる。

取扱問屋名 別項名簿参照。

六、麻真田 (横濱市場)

産地 新潟、愛知、神奈川、静岡、石川、茨城各縣及東京府下。

五月より十月頃迄に盛に入荷し、九月頃より翌年一月迄に輸出せらる。

輸出先 我國としては年額一千万圓以上の輸出をなし、米、英、佛、獨、濠州、伊太利、加奈陀の諸國である。

輸出品名柄

名柄	等級
卷七本打	特等
卷十三本打	一等
玉七本打	二等
玉十三本打	三等
縮緬打	同
縮緬打	同
縮緬打	同

縮緬打の注文は杜絶の形

取扱業者名

横濱市相生町二丁目	野崎合名會社	横濱相生町五丁目	上瀧株式會社
同 北仲通二丁目	南里商店	同 尾上町三丁目	服部商店
同 相生町四丁目	山田商店		

七、和紙 (東京、大阪、横濱三市場)

産地 東京へ入荷するものは土佐六割を占め、伊豫、石見、因幡、淡路、美濃、越前、埼玉、下野、信州等よりも入荷がある、年額千二三萬圓位であらふ、大阪、横濱も大體入荷先は東京に同じ、大阪は一千一二百萬圓の入荷價格であつて、その七割強は輸出せらる。

入荷は三四月頃より七八月頃迄最も多い。

貿易 輸出せらるゝ種類は雁皮紙、薄葉紙、吉野紙、曲貝紙、鳥の子紙、半紙、美

濃紙、塵紙、紙ナブキン及其他の日本紙で、傘輸出額二千四百八十八萬圓内外(一年)であつた。

取扱商店 各市場共別項名簿参照。

八、百合根 (横濱市場)

産地及出廻期 鹿兒島縣産の早生鐵砲は六七月、埼玉、群馬、東京、千葉の晩成種及神奈川縣の山百合、赤白鹿ノ子は九月、十月、十一月入荷を見る。

貿易 輸出は年によりて消長あるも、大正十二年には五六十万圓であつた、仕向先は米國七割、英國二割、其他は一割である。輸出期は毎年六月中旬から十二月迄である。

取扱商店

横濱市中村町廿一	横濱植木會社	同 山下町一七三	ロバートフルトン會社
同 尾上町一丁目	新井商店	同 根岸	日本百合輸出合資會社

九、蕪朮粉 (東京、大阪兩市場)

産地 東京市場へ入荷する物の産地は群馬縣、福島縣、茨城縣を主とし、近時千葉縣より生球として入荷を見る、入荷概數一萬一千俵内外である、大阪は前記各縣の外岡山縣及生球として支那朝鮮九州地方より入荷せられる、入荷量は精粉として一

萬三千俵内外精粉以外十五萬貫の入荷がある。
市内消費量 東京市内で消費せらるゝ量は、八千俵内外で、他は關東近縣東北、北海道方面に移出せられる、大阪市内の消費量は約五千俵を超へる、他は大阪以西各地滿鮮地方へ移出せられる。

取扱商店 前項名簿參照。

一〇、蕨 粉 (東京市場)

產地 東京へ入荷せらるゝものゝ產地は、從來は秋田、群馬、土佐、飛騨等であつたが、現在は殆ど全部が秋田物である、元來本品の需用は東京に於ては少なく、從來は一度入荷したのも、又地方へ移出せられたものが多かつたが、震災後は當地商人の信用不明となりし故、直接需用地と取引する傾向が増し、東京へ入荷する量は漸減の有様である。

一萬四五千貫の入荷物は、市内消費は三分、他七分は府下及近縣へ移出せらるゝ、近時支那產品の輸入を増し、内地物の約半量も輸入せらるゝ様になつた事は注意すべき事だ。

入荷期節 春は三四月頃、秋は十、十一月である。

用途 傘、登油、織物用糊等である。

取扱人 前記名簿參照。

一、推 茸 (東京、横濱兩市場)

產地 東京へ入荷する産地は静岡、山梨、兩縣北海道、大島等であつて、静岡縣からの入荷が最も多く三千箱(一箱七斗入)他は合せて五、六百箱であらふ、其他木乾が少量入荷するも需用が少ない、その内九分は市内で消費せられ、他は府下及近縣殊に中仙道に添ふて多く仕向けられる。

横濱 當市場に入荷するものは、静岡縣産最も多く、宮崎、大分、三重、近縣物、北海道物である。専ら輸出に向けられ市内消費は云ふに足らぬ。

入荷期節 生産時節に最も多く、梅雨期が最も閑散である、即ち春子は四五月、秋子は十、十一、十二月である。

貿易 仕向先は香港上海が主で輸出量の八割當り、他は北米、布哇、加奈陀、比律賓、印度等であつて、毎年二百萬圓内外の輸出があり、震災前はその三割が横濱からせられたが、震災後は振はぬ。輸出向のものは冬茄(木干)の厚葉物に限られて居り、薄葉物及香信は内地向で輸出せらるゝ事が少ない。

取扱商店

横濱市尾上町五丁目

小松吉一郎

同 湊町三丁目

中岩商店

二、澤庵漬 (大阪、關門市場)

産地 東京、伊勢、阿波、泉州、山口、大和等より入荷し三十五萬樽内外に及んで居る。岡山縣、臺灣其他へ四五萬樽移出せられる。關門市場へ入荷せらるゝものは山口、徳山、阿波等からで計二萬七千樽内外に及んで居る。市内消費は約一萬五千樽で、他は朝鮮、臺灣、大連、青島、上海等へ輸出せられて居る。

取扱商店 大阪市場名簿参照。

關門市場

下關市東南部町

坂本卯之助

下關市店戸町

坂井虎五郎

門司市榮町四丁目

林田善藏

門司市老松町

庄野商店

三、兎、兎毛皮

産地 東京市場へ肉用及試験用として入荷する、生兎の産地は長野縣、東北地方、其他近縣である。横濱に入荷するものは、殆ど兎毛皮で、輸出用のものである。産地は前記各地及四國九州地方である。

貿易 輸出せらるゝものは白色兎毛皮で、雑色の者は少ない、米國を主として近時英國へも向けられて居る。年二十萬枚に及んで居る。出荷期節 肉用及試験用のものは、年中出廻り居るも毛皮は三月以後に生産せらるるものは質不良なる故、十二月一、二月が最も盛である。用途は婦人外套用、防寒具、帽子等に用いられる。取扱業者 東京市場別項名簿参照。

横濱市場

横濱市桐生町二丁目

阿部幸一

同

相澤商店

四、搗 栗 (東京市場)

産地 東京へ入荷するものは、福島、群馬、甲州及廣島の各地方朝鮮である。入荷期節 十月中旬より十二月下旬頃まで最盛である。取扱商店 別項名簿参照。

五、干 柿 (東京市場)

産地 武州、甲州、信州、福島、山形、静岡、青島等より入荷せられ、一年二十四萬箱位の入荷を見る。入荷期節 産地によりて入荷期節を異にするも、大體十一月中旬に初まり、二月頃

迄に及んで居る。

取扱商人 名簿参照。

一六、切干大根 (東京市場)

産地 東京市場へ入荷するものは尾州物及下總物で、二百四十車位に及ぶ、其の内四十五車位は府下及東北各地北海道へ移出せられる。

入荷期節 十一月中旬より三月上旬迄に入荷し、十二月上旬頃より二月頃迄の間に移出せられる。

取扱商店 名簿参照。

一七、切干甘藷

産地 東京市場へ入荷するものは静岡縣、千葉縣より出るものである。百四十五車に及んで居る。

入荷期節 十二月上旬から翌年三月頃迄に入荷し、其の期節又府下東北各縣十七八車移出せられる。

取扱商店 名簿参照。

一八、模造バナマ (神戸市場)

産地 産地は主として臺灣及琉球である、内地は工賃高くして生産に適しない。

入荷期節 十月十一日及十二月に入荷最盛であつて、三ヶ月入荷合計八六、五一一打である。

貿易 殆ど全世界に輸出せられ、英國北米合衆國、濠洲、埃國等需用多い、本帽子の賣行は流行及其年の暑氣に關係して居る、暑さの酷しい年は賣行盛である。又近年婦人の斷髪が流行し、男子と同様の帽子を用ひ、從來のピン止めが減じた爲、本帽の賣行が減じたとの事である、年輸出計十八万八百四打である。

取扱商店

神戸市三ノ宮一丁目 共三組株式會社

同 浪花町六四 信友組

同 磯上通六丁目 中村伊三郎商店

一九、凍豆腐 (大阪市場)

産地 野川、小倉、千早、東葛城、不見、北山、播州、信州、朝鮮、及大阪(冷蔵)等より入荷を見る、一ヶ年間二十一萬六千三百五十函の入荷がある。市内消費量は四萬二千四百七〇函で、十七萬三千八百八十函は四國、中國、山陰、九州、滿鮮、北米、布哇等に移輸出せられる。

入荷期節 十二月より四月頃迄入荷し、出荷は年中である。

銘柄 凍豆腐の銘柄は、冷蔵千早、葛城、東葛城、小倉、野迫川、不見、北山、播

州、信州、朝鮮等産地を以て表す様である。
取扱商店 別項名簿参照。

二〇、除虫菊 (神戸市場)

産地 神戸市場へ出荷する地方は北海道、廣島、岡山、愛媛、香川、和歌山等である。

入荷期節 新物の出廻りは六月頃より初まり、七月迄が入荷最も盛である。

貿易 除虫菊は支那、香港、英國、佛國、獨逸、北米合衆國、澳國、布哇等の諸外國へ輸出せられる。

取扱商店

- 神戸市磯上通八丁目一三 長岡 佐介 同 加納町四丁目二〇三 栗井龜太郎
- 同 海岸通一〇 鈴木合名會社

除虫菊會社

- 大 阪 市 大日本除虫菊株式會社 同 内外除虫菊株式會社
- 和歌山市 大正除虫菊株式會社

二一、生 鶏 (東京市場)

東京市場に於ける生鶏の類別

大別して軍鶏とバツタとに別ちます、軍鶏 從來闘鶏として飼養せられたものであ

つて、産卵が少ないから、採卵用には向かないが、其の肉は豊満で、其の上美味であるから、價格も高く、食用鳥として最も尊ばれる。

バツタ 軍鶏以外の鶏ミノルカ、コーチン、プリモウスロック等重に採卵用鶏の事を云ふもので、東京へ出るのは産卵の減じた古雌又は雄雛の様なものであるから、シヤモに比べて常に價は下である。

尙生鶏取引の銘柄を示すならば、次の通である。

- 1 雛雌 〓 シヤモの雛雌で目方四百五十匁以上であつて、肉付良好なものを云ふ。
- 2 中雛雌 〓 シヤモ雛雌で、目方四百匁内外のもの及肉付きが前の雛雌に較べて少々不良なものを云ふ、相場は前の者よりも百匁に付六七錢下である。
- 3 大雌 〓 シヤモの親雌で、目方五百匁以上で肉付きよきものを云ふ。
- 4 丸雌 〓 ハツタの親雌で、目方四百匁以上の肉付よきものを云ふ。
- 5 小雌 〓 バツタの親雌で、目方四百匁以下のもの及び上のものでも肉付の稍々劣等なもの云ふ。
- 6 下丸雌 〓 バツタの親雌で、四百匁以下のもので、肉付極不良のものを云ふ。
- 7 大雛 〓 シヤモの雛雌で、目方は五百匁以上で、肉付の良好なるものを云ふ。
- 8 中雛 〓 シヤモの雛雌で、目方四百五十匁で、肉付良好なものを云ふ。

- 9 小雛||全ての雛の二百八十羽乃至三百六七十羽迄の發育良好なるものを云ふ。
 - 10 下小雛||小の雛肉付の悪いもの、及び二百八十羽以下二百羽位のものをも云ふ。
小雛と下小雛との相場の差は六七錢である。
 - 1 爪物||は生後一ヶ年以上経た雄雄の親鶏で、シヤモ、バツタ、共に同格である。
 - 2 荒雛||はバツタの雛雄で四百羽以上で、肉付の良好なるものを云ふ。
生鶏出荷上の注意
- 癩鶏の處分養鶏家の考へなければならぬ事である、市場へ送る場合荷造に注意して死鳥を出したり、著しく弱めたりする事は大損である、荷造に付ては次の項目に注意ありたし。
- 1 先づ生鶏用平籠の丈夫なるものを用意する事。
 - 2 籠の中には菰を敷き、上は縄で十分にからみ、成るべくは封印をする事。
 - 3 一ツの籠の内には、鶏の大小で数を加減し、十羽乃至十五羽迄とする事。
 - 4 雌雄は混合せぬ事。
 - 5 大鶏と小鶏とは、同一の籠に入れぬ事。
 - 6 輸送には夏季は少し、丈の高い籠を用ひ、冬季に比べて羽数を少なく入れる事。
 - 7 鶏は決して足を搏ばらぬ事、これは非常に鶏を痛めるからです。

8 輸送は成可迅速なる様取計ふ事、殊に夏季は夜行列車(出来れば急行貨車便又は客車便)を利用して夜涼しき内に目的地に着く様にする事。

取扱商店 名簿参照。

二二、鶏 卵 (東京市場)

産地 生鶏の出荷地は千葉、埼玉、茨城、栃木、神奈川、宮城の諸縣及府下である、總量約九萬籠五十五萬貫である。
市内消費量は五十二萬貫内外で、横濱市へ三萬五千貫、夏季輕井澤へ千二百貫内外を再移出する。

荷造及出荷に關する注意

鶏卵の荷造り方法の功拙は、販賣上に大關係があり、又輸送中の破損の率にも大關係あるものであるから、注意を要する、荷造が拙劣であれば、内容物即ち鶏卵の破損腐敗歩合は非常に多くなり、輸送中に外部から振動を受けて箱が破壊し、粗殻が漏れて自然鶏卵が破れ、之が腐敗して他の完全なもの迄も外殻を穢し、粗殻を濕らし殆ど完全なものがない迄になる事がある、斯様な荷造が東京市場へ來ても手の付け様がなく、折角の出荷も無駄になる事がある、故に先づ次の事項に注意して荷造せられたい。

荷造り前の注意

- 1 採卵日のなるべく同一なものを選ぶ事、夏季は殊にこの注意肝要。
- 2 東京市場では、赤殻卵は輸入卵と見做す習慣があるから、白卵に較べて一貫に付五十錢も生を安く仕きられるから、止むを得ぬ場合でも一割位に止める事。
- 3 成るべく卵の殻の穢れぬのを撰ぶ事。
- 4 地方によりヌキ卵とて一度親に抱かせて二三日経て、検卵の際抜き取つた無精卵を混せる所があるが以ての外的事である。

荷造上の注意

- 1 石油箱又は揮發油の空箱で、釘のゆるんで居ない、而かも板目の間隙のない完全なものを用ふる事。
- 2 粃殻は新鮮で、充分乾燥したものを、一度篩でふるつて用ふる事。
- 3 卵は縦詰めにし粃殻を充分に堅く詰める事。
右の三項が大切である、箱に板目の隙間があると、輸送中に粃殻が漏れて内に間隙が出来玉子が破壊する事が多く、粃殻の濕つたのを用ふると腐敗の原因となります。篩はない粃殻中には極く細かいゴミや破片等があつて、卵の氣孔をうめて外觀を甚しく損じする。

取扱問屋 別項名簿参照

二三、山 葵 (東京市場)

産地 東京へ出荷する地方は、静岡縣伊豆の國、信州、東京府下青梅地方、静岡縣(伊豆を除く) 神奈川縣である。

入荷期節 地方によりて異り伊豆は年中を通じて山葵の出荷をなす、信州は十一、十二、一、二ノ四ヶ月間が最も出荷が多く、八、九、十月の三ヶ月間は之に次ぎ、三、五、六、七月は少量の出荷を見、四月は殆ど出荷ないと云ふもよるしい、青梅地方は五、六月の二ヶ月間、他地方産の山葵が品薄すの時に補いその前後四、七、兩月にも多少の出荷がある、静岡地方は十二月、一月に出荷最も多く、十月、十一月之に次ぎ、他月は極めて少量の出荷をなすに過ぎない、神奈川縣は四月中他地方産の品薄すの時節に出荷を初めて五、六の二ヶ月に最も出荷量多く、七八の二ヶ月之に次ぎ、一年を通じて少量づゝは出荷して居る。

入荷數量 伊豆物二萬八百二十五貫、信州物二萬貫、青梅物三千五百貫、静岡物千八百七十貫、神奈川縣物千四百貫、計四萬七千六百七十貫、價格にして五十萬圓位である、市内に於ては四十萬圓は消費せられ、二割は近縣東北地方等へ再移出せられる。

取扱問屋

神田市場 專業者七店外三店

小林市兵衛 加藤定七

松本長次郎 奥倉厚次

岡林長兵衛 戸野部喜代松

堀池長助

京橋市場

鈴木長助

二四、生 豚

産地 東京へ出廻る生豚の産地は殆ど全国的であり、遠くは北海道より九州鹿兒島方面までが東京市場に向けて出荷されて居る、此は關西地方に於ける大都市が豚肉を多く消費せざるに依るのである。最も入荷量の多い産地は何と云つても静岡縣である。

今茲に各産地の品質を見れば、大體静岡、千葉、愛知、神奈川等東海道筋の豚が一般に肉付優良であり、東北方面に至りては、品質が一段劣る。併し乍ら新潟縣、長野縣物は最近優良なるものを産出するに至り、又九州方面の荷は大體大きいのと肉質がしまつて居るので、比較的重要視され、入荷量も可なり多いのである。

入荷數量 豚の入荷量は近縣物（千葉、茨城、埼玉、神奈川、東京府下）は屠殺の

上、枝肉となし市場へ移入される數量が最近非常に多くなり、其他自動車、馬車、手車等に搬入する數量も可なり多いから、此等を合計し毎年約二十萬頭見當と見るが至當であらう。

屠殺場 屠殺場の多くは株式組織であるが、主なるものは三輪、寺島、北千住、野方等である。今茲に大正十三年度の屠殺數量を示せば、左記の如くである。

三ノ輪	九六、〇八三頭	寺島	三九、七五二頭
北千住	一一、一五三頭	野方	一六、〇五〇頭

四、各産地に於ける副業品の概況

北海道

◎ 藁細工品 年産額 百五十萬圓

本道に於ける藁細工は起源詳ならずと雖も、之を水田開發の狀況よりして見るに、舊い歴史を有するものゝ様である。而して旺ならんとする氣運に向つて來るのは大正二年頃からで、爾來長足の普及發達を見、今や全道水田地方は殆んど製作しないものはないといふ状態を見るに至つた。而して製作は從來主として繩類であつたものが、近時水稻栽培法の進歩に伴ひ蕙類の製作が行はるゝに至り、前途を囑目すべき状態にある。尙販路は全部道内で最近偶々樺太にも販路を有するに至つた。

生産者	上川郡永山村	永山聯合副業組合
	同 東旭川村	東旭川村倉沼副業組合
	同 東川村西十號	稻 井 好 太 郎
	同 同 村西十號	前 川 金 吉
	雨龍郡妹背牛村	中 村 新

空知郡瀧川町	中村作太郎
雨龍郡多度志村	川田光雄
同 郡秩父別村	早川清信
空知郡栗澤村	佐川
同 郡砂川町北五號	坂本彌助
雨龍郡秩父別村	佐藤サダ
夕張郡由仁村	竹田竹次郎
雨龍郡納内村	篠崎柏松
夕張郡由仁村	多田善次郎

◎竹細工 年産額 八萬二千圓

竹細工の創始は今から數十年前のやうであるが、其の發達の曙光を認めらるゝに至つたのは、極めて近年の事に屬し従業者も至つて少ない。而し技術は未だ幼稚であるが、原料たる根曲竹、スズ竹が極めて豊富であるから、今後著しい發展を見るであらうと思はれる。現在の製品は主として籠類で、販路は道内である。

生産者 樺戸郡新十津川村 高橋忠藏
室蘭市母戀北町 鈴木武藏

旭川市二條通十二丁目	多田丑太郎
札幌郡廣島村下仁井別	乗松一三郎
古宇郡泊村盃村	吉村市次郎
樺戸郡新十津川村	吉田秀一

◎黍 年産額 三萬五千圓

黍の栽培は明治四十二年頃から創始せらる。當時極めて僅少なるものに過ぎなかつたが、奨励の結果年々増加し、今や各地に於て栽培、又は試作するもの百四十町歩に達するに至つた。而して黍の製作は亦栽培の増加と共に、漸次普及發達し、膽振國伊達町、北見國斜里村、後志國南尻別村及東俱知安村、石狩國沼貝町に於て優良なる座敷黍を産出するに至り、尙販路は主として道内である。

生産者 空知郡上富良野村 上富良野村農會
樺戸郡新十津川村 湯本仙太郎
虻田郡辨邊村 石川儀助
檜山郡江差町 江差黍籌組合
河西郡帶廣町 帶廣副業組合
樺戸郡新十津川村 宮上由太郎

虻田郡真狩別村
磯谷郡南尻別村

穴水清一
昆布黍帚生産組合

◎除虫菊 年産額 二百二十三萬圓

除虫菊の栽培は極めて最近に屬するものであるが、急足なる發達を示し、其の作付反別四千六百餘町歩に達して居る。主なる生産地は上川、空知、後志、網走の各地方で、販路は主として横濱神戸地方である。

生産者 上川郡和寒村

虻田郡俱知安町

有限責任和寒除虫菊販賣組合
北辰藥草會社

◎澱粉 年産額 二百三十萬圓

澱粉製造の起源は比較的近年に屬するが、本道は馬鈴薯の栽培に好適し、最近に於ける作付反別四萬二千二百四十九町一反、生産高一萬一千一百五十萬八千八百六十四貫に達し、其の四割強は澱粉の製造に消費して居る現狀であつて、主なる産地は上川、後志、網走、空知、渡島地方で、是が販路は歐洲戰亂當時海外に輸出殷賑を極めたものであるが、休戦後輸出不振に陥り目下は主として國內消費として内地方面に移出して居る。

生産者 山越郡八雲町砂蘭部

林常則

虻田郡狩太村	狩太村農會
上川郡士別町字下士別	永峯只七
中川郡美深町	美深町農會
上川郡名寄町	五十川俊一
同 郡士別町	太田磯七
虻田郡俱知安町	宮本豊吉
同 郡真狩別村	大西佐源太
同	大西兼吉

◎眞綿 年産額 二萬圓

本道の蠶業は百數十年前に始まりしと雖、普及發達の度極めて遅々たり、之れ氣候其の他適せざるにあらずして熱心之に従事するもの少かりしに因る、然るに本道農業又漸次集約的經營に向ひ、是に伴て蠶業に對する注意も亦喚起するに至りたる結果、近時斯業に従事するもの多きを加ふるの狀勢にあり。故に蠶業の採算を一層良好にし、其の發達を助長するの一助として屑繭を加工し、其の價値の増加を圖らむが爲め、數年前より眞綿製作を奨勵しつつあり、其の産額未だ僅少なりと雖、養蠶の普及發達と共に、今後相當増加を示すべし、販路は主として道内なれども、最近樺太方面に販路

を有するに至つた。

生産者

留萌郡小平薬村折真布	小平薬養蠶組合
磯谷郡南尻別村貝殻澤	貝殻澤養蠶組合
虻田部俱和安町	後志十三郡農會
虻田郡俱知安町字ホンタクトサン	尾村スエ
樺戸郡浦臼村晩生内	橋本
磯谷郡南尻別村鳥居澤	椿宜次

◎杞柳細工 年産額 四萬七千圓

杞柳栽培の濫觴は、明治十六年頃なりしも、發達の度比較的遅々たり、然れ共本道には河川堤防敷地其の他栽培適地尠からざるを以て、數年前より之が栽培並杞柳細工を奨勵したる結果、年と共に勃興し、今や植栽反別百九十餘町歩を算するに至り、今後相當の普及を見るに至るべし。製品は主として柳行李バスケットにして、販路は道内である。

生産者

札幌郡江別町字對雁	對雁副業組合
空知郡山部村字西達布	高橋常吉
同 郡龍川町	尾上金次郎

◎藤 表 年産額 八千圓

藤表の製作は極めて日淺く、大正六年頃札幌、函館市を中心として創始せられ、爾來引續き奨勵に努めつゝあるの結果、相當産額を見るに至り、現在江差町旭川市等に於て製作しつゝあるに過ぎざるも、今後相當の普及を見るに至るべし、販路は道内である。

生産者

旭川市宮下通十八丁目	旭川藤細工副業組合
檜山郡江差町	江差町婦人會副業奨勵部

◎亞麻纖維 年産額 二百六十萬圓

亞麻は本道の特産物にして、歐洲大戰當時亞麻纖維の輸出好況を呈し、製線會社續出するの盛況を示したる際生産者中にも組合を組織して製線し、纖維として販賣するの有利なるを認め設立を見たりしも、戦後不振状態に陥り、現在に於ては、繼續經營するもの僅かに二、三あるに過ぎざれ共、斯業の前途着目すべきものがある。

生産者

常呂郡佐呂間村	有限責任佐呂間亞麻購買販賣組合
---------	-----------------

◎兔毛及兔肉加工品 年産額 一萬五千圓

家兔は從來愛玩的に飼育せられたるに過ぎざりしが、近時副業として飼養する農家著しく増加し、殊に兔毛加工の發達と兔肉の需要増進に伴ひ、今後一層の普及發達を爲

すに至るべし、現在に於ける飼育は富良野町及新十津川村地方最も盛なり、販路は道内及横濱地方である。

生産者 権戸郡新十津川村 池本 棋吉
函館市末廣町八五 中村 新八

◎蜂 蜜 年産額 七萬圓

本道は梅雨期と認むべき季節なく、蜜源植物頗る豊富なるを以て、其の發達に好適の要素を具へ、且つ副業として適當なるが故に、漸次發達の趨勢である。

生産者 空知郡岩見澤町四ノ二 後藤 彌平
上川郡士別町中央通 竹内 寅一
同 七二二 金井 荒次郎
同 郡神樂村東御料地 堤 甚太郎
同 郡士別町二線 佐久間 延太郎
中川郡川合村池田 伊藤 澤衛門
札幌郡琴似村 安達 一衛

◎牛 酪 年産額 六十萬圓

本道は農業經營上畜産を加味するは極めて必要なるを以て、獎勵の結果、年と共に畜

牛の増殖を見、現に頭數三萬有餘に達し、今後更に五十一萬頭以上に増加せしむるの計畫の下に獎勵の歩を進め、而して一面牛乳加工の獎勵を爲しつつあり、其の結果農村各地に酪農組合の設立を見、バターの製造盛んに行はるゝに至つた。販路は道内は勿論全國に及で居る。

生産者 山越郡八雲町山崎 石川 農場
龜田郡七飯村峠下 川村 忠太郎
空知郡音江村 有限責任音江酪農販賣利用組合
樺戸郡新十津川村 田中 由忠
磯谷郡南尻別村目國內 元木 光男
千歳郡惠庭村 惠庭 畜牛共済組合
同 惠庭村島松 村田 松多郎

◎羊毛及加工品 年産額 五千圓

緬羊の飼育は約七十年前函館に移入せしに始まり、其後相當の歳月を経たるも、遅々として振はざりしが、近時著しく勃興し、頭數約六千頭に達し、今後益々増加するの趨勢にあり、故に羊毛加工の講習會を開き、加工の獎勵を爲しつつある結果、毛糸、毛糸編物其の他の製品を得るに至りたり、今後は「ホームスパン」の製作の獎勵に向

つて力を致さむとす。

- 出品者
- | | |
|---------|-------|
| 蛇田郡洞爺村 | 洞爺村農會 |
| 常呂郡野付牛町 | 野付牛組 |
| 蛇田郡真狩別村 | 大野西忠治 |
| 同 | 大野西清吉 |
| 同 郡喜茂別村 | 齋藤林松 |

◎木工品 年産額 十八萬圓

農家の副業として製作せらるゝ木工品は、材料の豊富なるに比し發達遅々たりしが、近時講習會、傳習會、展覽會等を開催し、之が奨励に努めたる結果、定山溪、湯ノ川、登別の各温泉地に玩具及小家具の製作行はれ、又割箸、筥杓子等漸次農家の副業を増加し、尙八雲町徳川農場に於ては農民美術的木刻行はれ、殊に本道獨特の「アイヌ細工」は最も注目すべきものにして、同種族保護上考慮を要すべきものある等、今後は等の副業は相當農村に普及發達するものと認めらる。

- 生産者
- | | |
|------------|-------|
| 山越郡八雲町字砂蘭部 | 今井吉藏 |
| 同 | 伊藤政雄 |
| 同 字遊樂部 | 大村金次郎 |

- | | |
|------------|---------|
| 龜田郡七飯村大字大沼 | 佐藤藤猛 |
| 沙流郡平取村二風谷 | 貝澤ウエサナシ |
| 同 | 貝澤善助 |
| 勇拂郡厚真村振老 | 島浦清太郎 |
| 札幌郡豊平町定山溪 | 砂川善太郎 |
| 砂流郡佐溜太局區内 | 藤原政一 |

◎刺繡、編物 年産額 四萬一千圓

本道に於ける「フランス式刺繡」を創始せるは大正八年にして、時恰も物價騰貴し、生活改善の聲喧まじき際に際したるを以て、市街地婦人の副業として絶好のもの認め、講習會を開催すること二十有三回、終了者數千人に達し、一般婦人の製作漸次増加す、編物も亦氣候の關係上本道に於ける極めて必要なるものなるが故に、數年前より之を奨励せる結果、普及發達し自家用を充たし、進んで販賣用品の製作にまで従事するものあるに至つた、尙特記すべきは「アイヌ刺繡」にして、斯業研究資料として注目すべきものである。

- 生産者
- | | |
|------------|-----------|
| 旭川市七條通十三丁目 | 旭川女子技藝奨励會 |
| 旭川市アイヌ互助會 | 佐藤正治 |

愈々
石油發動機活
用の時機来る
是非アルファ
新二馬力半を
一日速く御使
になれば必ず
一日の得を生
みます。

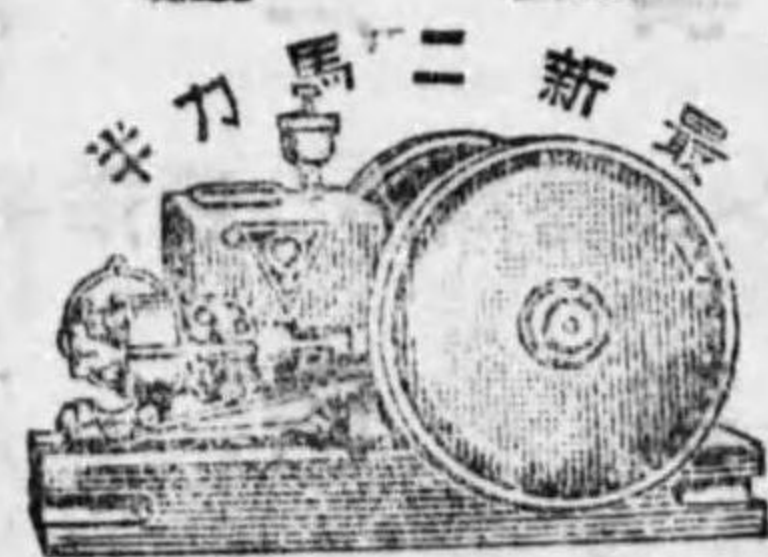
定檢種甲査審較比省林農

最新型
アルファ
石油發動機

數多庫在力馬各八六半三半二
送急り依に號番時即は品分部各
↑呈に方の用人御は書明説録型

店理代總洋東
社會式株具農力動米日
○七一宿原町谷駄千下府京東
番二七七山青電話

北海道發賣元
札幌日の丸商店



各府縣に代表的特約店あり
未設置の地方には更に募集

◎其他本道副業品の主なるものは左の通りである。

凍切干燕推木	豆千大麥雞	腐根瓢製品卵茸炭	三六六六	萬三十十	圓萬圓	旭川市四條通十四丁目	森
						同	今
						小樽市花園町東二丁目十六	井
						同	ミ
						東	ツ
						吉	サ
						良	エ
						う	子
						め	エ

弊社營業課目

種 苗 部

種子、苗木、球根類、生産輸出入販賣

農 具 部

農具、農用機械、牧畜及園藝器具、製作並に輸出入

販賣

肥料部及雜貨部

各種肥料、飼料及雜貨類

農業藥品部

一般農業藥品類

尙春秋定價表御申込次第送呈仕る可く候

札幌市南一條西十三丁目

ヤマト種苗農具株式會社

札幌支店

電話特長一〇六四番 二三五四番
振替口座小樽一一四番
本店 東京小石川扇區内高田町目白

▽生産者の爲めに.....

全道の農會、産業組合、出荷組合を打つて一九二〇
なしたる共同出荷機關

▽消費者の爲めに.....

優良なる道産、蔬菜果實を供給する本道唯一の共
同販賣機關

大正十四年度出
荷契約數量
△玉葱 一七〇、
○○○△馬齡薯
八〇、○○○△
苹果、百合根、
人参、甘藍、牛
蒡、長芋其他三
〇、〇〇〇



北海道蔬菜果實出荷組合聯合會

事務所 北海道廳農務課内

本會は生産者保護の爲め出荷物の時價八割に相當する資金を無利子にて融通す

肥料と農具

左記製品に付御用命の節は代理店又は特約店として各製造元の販賣方針に基づき極力出精可仕候

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------|-------|-------|-----------------|--------|-----|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|-------|
| 大日本人造肥料 | 株式會社製品 | 清水式無砂 | 精米麥機 | 藤瀨式動力用 | 岩田式動力用 | 尾上式大豆箱 | 碎粉機 | 石油發動機 | 石油發動機 | パイキング、ロータリー、ポンプ | 長岡式渦巻 | ホロン | アラパルクリ | ムセパレター | アラパルパシフ | イック會社製品 | ラウ會社製品 | インターナシ | ヨナルマコロ | ミック製品 |
| (一般化學肥料) | (一般化學肥料) | (並部分品) | (本機並品) | (本機並品) | (同) | (同) | (各號發動機並に部分品及附屬品) | (同) | (同) | (一般灌漑用) | (本機並品) | (分) | (附農用器具) | (附農用器具) | (附農用器具) | (一般大農具) | (同) | (同) | (同) | (同) |



(清水式精米麥機) (藤瀨式動力用) (岩田式動力用) (尾上式大豆箱) (碎粉機) (石油發動機) (パイキング、ロータリー、ポンプ) (長岡式渦巻) (ホロン) (アラパルクリ) (ムセパレター) (アラパルパシフ) (イック會社製品) (ラウ會社製品) (インターナシ) (ヨナルマコロ) (ミック製品)

肥料大取扱 農具直輸入

日丸商店

札幌市北五條一ノ四 電話一〇二一番・三〇四番

青森縣

◎ 萃 果 年産額 六百三十二萬二千九百二十二貫 三百六十二萬三千六百五十五圓

本縣林檎栽培の起源を回顧すれば、明治七年弘前東奥義塾教師たる米國人エング氏は、其の故國より十二三本の萃果苗木を持ち來り二三人に分與し、同八年當時の内務省勸業寮より苗木の配付を受けたるを嚆矢とし、測次勃興したるも、屢々戦慄すべき病虫害の襲來に遭遇し、殊に明治三十年より數年間は頗る猛烈を加へ、廢園續出し斯業の前途に暗澹なるものありしも、當業者善く之と戦ひつゝ栽培法の研究に努力したる結果、著しく進歩發達し、今日の盛況を觀るに至つた、國內津々浦々は勿論、遠く海外に輸出せられ、従つて林檎と言へば青森と直に聯想せらるゝも亦決して理由なきには非らざるのである。此の品種實に六十有餘程ありしも、不良種は漸次淘汰せられ、現今優良品として栽培せらるゝものを擧ぐれば、早生種、紅魁一名六號、中生種、祝一名大中、又は中成子、晚生種、紅玉一名千成又は滿紅、柳玉一名蔓長、國光一名雪の下等にして、之れが栽培地としては南津輕郡黒石町附近一帶、同竹館村附近一帶、中津輕郡清水村附近、北津輕郡板柳町附近、三戸郡向村附近等が最も盛んである。

主なる販賣業者

中津輕郡役所内
 青森縣林檎同業組合
 南津輕郡竹館村 林檎販賣購買信用利用組合
 中津輕郡清水村 清水林檎組合
 南津輕郡石川村 乳井林檎組合
 同 藥師堂林檎組合

◎木通蔓細工 年産額 八萬三千四百七十一圓

天保年間無名の浪人中津輕郡嶽温泉に湯治し、其の近邊自生の木通蔓を採り製作したるを、中津輕郡大浦村大字賀田、古川彌作氏之が傳習を受け、專業とし居村にも傳へて、主に婦人裁縫用籠、玩具類及び茶器類等當時それは幼稚なものであつたが、明治十三年頃より同業者殖え、同十五年頃弘前藩士族一般の副業として普及するに従ひ、提籃、洋器入、菓子盆等意匠の入りしものを作り、特約輸出するに至り、明治三十六年第五回大阪博覽會へ初めて出品し、聲價を博したる結果、京阪横濱地方より注文頻繁販路漸く廣まるに至る、三十六年伯義萬國博覽會、三十七年聖路易萬國博覽會に出品好評を博し、爾來外國に認められ、横濱より續々輸出するに至つた。各地に傳習會起り、他府縣に視察員を派遣し、各地雛型を參考とし、一面地方特産として深き研究を積み、逐年新味を加へたる結果、目下の種類五百餘種の多きに達し、年額約十萬圓

を産し、將來有望の副業とするに足る。産地は中津輕郡大浦村、弘前市、青森市、南津輕郡大鰐町、同山形村である。

◎竹細工 年産額 七萬百二十六圓

中津輕郡大浦村大字賀田を中心とし、古くより製造したるも簡易なるものにして専ら縣内需要に供しつゝあるも、大正十年頃より縣の奨勵により、高等品、即ち文庫、手提籠、衣裳入、紙屑入、炭取、花籠等を着色法によつて製作仕上するを傳習せる結果、今日は相當觀るべきものがあり、縣外主として北海道に輸出するに至る、今日産地として主に大鰐町中津輕郡東目屋村、北津輕郡中里村なるも、將來は縣下到る所無盡藏なる根曲竹を利用し得る事業なる故、各地に勃興し有望なる副業である。

◎藁工品 年産額 二百五十七萬四百二十二圓

製作の起原詳細でない、然し維新前より行はれたる所は南津輕郡淺瀬石村を以て第一とす。日清戰爭當時より各郡に普及し、三十五年より北海道に輸出せらるゝに至り、爾來漸次普及發達し、明治三十九年縣の検査により一大改善を加へられ、又大正三三年度より改良製藁、製繩機の普及奨勵により品質の向上及び統一を期すると共に、生産能率の増進、價格の低減を圖りたる結果、北海道、岩手縣、宮城縣、其の他に輸出せらるゝもの逐年増大し、今年年額三百萬圓に達し、縣下第一の副業となつた。品目

の主なるものは荷造莖、干莖、中間繩、大倉繩、肥料吠、石炭吠、雜穀吠等にして、縣下一圓より産するも就中黒石町、五所川原町、弘前市附近最も盛んにして取引商としては青森市鎌田重吉、同島津圓次郎、南津輕郡光田南村堂東産業組合等の順である。

◎蔬 菜
胡蘿蔔 六十六萬一千六百六十貫 十九萬一千九百九十五圓
午 莖 八十六萬一千五百三十五貫 二十七萬三千八百三十三圓
長 芋 三十三萬三千九百九十四貫 十九萬一千九百九十四圓

三戸郡向村、平良崎村、三戸町の馬淵川沿岸を中心とし、天惠の地味を有し、古くより蔬菜の名産地として聲價を博し、年々、仙臺、盛岡、青森、函館の都市に輸出する外、荷造に便なる胡蘿蔔、午莖、長芋、葱等は主に大阪天満市場に供給し、逐年名聲を高めてゐる。

販賣機關としては、向平良崎蔬菜出荷組合、三戸同組合、留崎同組合、劔吉同組合の設立ありて、品位、等級及び荷造の検査を行ひ諸般の改善と便宜を圖つてゐる。

◎馬鈴薯 年産額 一千三十五萬二千九百九十五貫 百六十二萬二千二百二十二圓
南津輕郡藤崎町を中心として栽培せられたるも、今日は東津輕郡、上北郡等縣下一圓に普及し、其の反別約五千町歩に達し、年々東京、横濱、阪神地方に輸出し、聲價を博してゐる。主なる販賣業者としては、藤崎町藤本兼吉、同町五十嵐金助、上北郡三澤村農會とする。

◎罐詰類 年産額 三十五萬圓

罐詰は年を逐ふて隆盛に趣き、鮭、鮎、鰯、帆立貝柱、北寄、鯉、鮪、鯨、海丹等の魚貝類を主とし、果實として椗柿、櫻桃、苹果、筍茸其の他野菜類、漬物等其の價格低廉なるため販路極めて廣く、三戸郡八戸町、上北郡、弘前市、青森市を主産地とすることが出来る。

◎鰻焼干、田作及鰯干鮑 年産額 百五十六萬九千八百八十八貫 二百四十六萬八千六百三十七圓
本縣の鰻の漁獲極めて多く、田作、焼干、煮干、搾粕に製造し、殊に焼干は鯉節の代用品として賞用せられ、近年頗しく縣外に販出せらるゝに至り、三戸、上北、東津輕の各郡及青森市に産し、鰻は支那輸出品として沿海地方産出せざる所なしと雖も、就中下北郡、東津輕郡最も多く良品を産出す。

◎織 物

縣内各地に産すと雖も、就中弘前市風に津輕手織の産地として知られ絹織、綿織、交綿を産し、縣内農家の需要に應ずるため、専ら實質の堅牢に重きを置く故、外觀の美少きも實用に適し、尙近來頗る改良を加へられ、北海道に販出する者多し。

海産物加工専業東北の王

賜皇后陛下御嘉納の

あわび粕漬

を筆頭に

各魚貝粕漬十數種、味淋干小魚數十種
鹽干魚海草數百種、外佃煮珍品各種製造

青森縣八戸市鍛冶町

鮑屋下館商店

振替仙臺三六一五番

樽詰、罐詰
國詰、櫻詰
袋詰、籠詰
俵詰各種

引取方地

販賣御希望の方は御申越次第製産目錄及毎月十五日發行の製品カタログと漁業状態報「漁場の聲」を送呈します。
小口(貳十圓以内)の御注文は前金にて振替口座仙臺三六一五番へ御拂込下さい。
御値段は大勉強で差上ります。

青森縣銘産即賣店協會

苹果	中津輕郡高杉村	木村	繁壽
木通蔓細工	同 郡大浦村	笹村	永吉
長芋、午莠、苹果、胡蘿蔔、干菊	三戸郡向村	留目	豊作
鮑、鱈、鮭、いか、粕漬、いか鹽辛	三戸郡八石町	下館市	太郎
木炭	同 同	植村	彦太郎
雪の花(鱈)のしいか	青森市米町	櫻庭	秀雄
漆器	青森市大町	田邊	憲一
燒干、錫、貝柱、昆布	青森市堤町	近藤	善吉
蔓細工	青森市寺町	吉尾	源達
履物	青森市大町	伊藤	政助
湯葉	青森縣八戸町	萩井	喜助
桐飯櫃		八田	吉

登録
商標

谷

青森縣南津輕郡竹館村大字唐竹字藤原百八十九番地

無限責任 竹館林檎販賣購賣信用利用組合

本組合は組合員の生産したる林檎の販賣を主たる目的として生まれ同時に林檎生産上必要なる購買、信用、利用、農業倉庫等の事業を經營して居ります而して吾が組合の特色とも目すべきは

- 一、林檎果實の品質最も優秀にして殊に谷の「美人レットル」と云へば全國各市場に於て知らぬものはないと云ふ逸品であります
- 二、組合員が生産品を全部一所に蒐め嚴正なる品等査定による共同荷造であるから品質が「レットル」に依り整然統一されてあります
- 三、組合の年産額は十萬圓を超へて居ります
- 四、組合成績拔群なりとの故を以て大正五年五月産業組合中央會より特別表彰せられ恩賜財産特別獎勵金貳百五拾圓拜受の光榮に浴しました
- 五、奥羽線石川驛前に建設せる當組合農業倉庫は地下室冷蔵装置を整へ主として林檎の長期貯藏に充てゝありますから盛夏の候を除いては大低註文に應じ得られます

岩手縣

◎ 苳 年産額 五萬圓

主産地は西磐井郡、膽澤郡、從來は在來製苳機にて製作せらしを以て、其の生産能率好成绩を告げた。近年足踏式製苳機普及と共に、著しく生産能率を高め生産額も從て増加し、殊に販路は近く、三陸沿岸地方の粕類の乾用及包装用として取引せられ、遠くは北海道の需要多く、之が刺戟を受け一層從業者を増すの傾向がある。

生産者 西磐井郡涌津村 磐井製苳組合

◎ 籠、箆、行李 年産額 二十萬圓

主産地を二戸郡浪打村とする。本村竹細工の起原は茫として明でない、大同二年慈覺大師が鳥越觀世音を勸請せし當時より既に行ひ居たるが如く、地勢上本村は筋竹の發生山野に多かりしを以て自ら竹材を伐採して本業の傍ら竹細工を副業として明治に及んだ。明治四十一年信州人高田浪彌氏盛岡より本村に來り、二ヶ年間半傳習所を設けて竹細工の傳習を行ふて以來、製作の技術漸く進歩し、販路稍廣まりたるも仲買人の蹂躪に遇ひ、設立の緒に就きたる鳥越竹細工組合も効を奏せず、大正三年鳥越信用購買販賣組合を創設し、製作材料の共同購入又は資金の流通を圖り、且つ仲買の奸策

に陥るを妨ぐ爲に、組合員の全生産物を組合に於て價格を評定して購買し、縣内外に販賣してより基礎確立して今日の盛況を呈するに至つた。

生産者 二戸郡浪打村鳥越 鳥越信用購買販賣組合

◎和 傘 年産額 三十萬圓

本品は其の起原を知るに困難であるも、稗貫郡花卷及江刺郡福岡村の主産にして、古くより此の業あり堅牢を主とするを以て、其の名を得現今に至つたものである。

生産者 岩手縣稗貫郡花卷川口町 大 森 善 二 郎

菅 原 克 太 郎

◎木杓子 年産額 五萬圓

岩手郡御所村及盛岡市の主産にして、白木の儘にして最も使ひ易き特徴を有し、且つ改良品は實用新案を得、世人一度之を使用せば他を使用せんとするものなしと云ふ。

生産者 岩手郡厨川村 常 川 正 雄

◎疊表莫産 年産額 五萬圓

紫波郡、稗貫郡、西磐井郡に産し、製織機を改良して生産組合を組織し、多くは自ら蘭草を栽培して之を製織す、其製品は北海道及東北地方に輸出す。

生産者 紫波郡不動村大字北傳法寺 星 川 彌 太 郎

宮 城 縣

◎竹製品 年産額 六十三萬四千圓

竹製品の種類種々あれども、其の主なるものは竹行李、箆及籠、蠶箔等で、各地特色あり、就中玉造郡岩出山に産する箆類に至つては、技巧精妙にして、耐久力に富み、名聲夙に遠近に隆じ、尙栗原郡の蠶箔及本吉郡に於ける竹行李等漸を遂ふて一般に普及してゐる、販路は東北五縣茨城、栃木、北海道の一道七縣に及ぶ。

生産者 玉造郡岩出山町字東河原廿八番地 永 倉 留 治

◎和 紙 年産額 四十四萬六千圓

和紙は名取、刈田、伊具、光田等の諸郡に産す、其の最も古き歴史を有するは刈田、伊具、名取の三郡で創業年代等詳かでないが、遠く藩政時代に始まりたるものの如くである。各主産地共一時非常の隆盛を見たが、爾後工場製紙に移り、副業的小規模の製品は漸次競争に不堪、衰頽の傾向にあり、販路は概ね地廻なるも、塗物包装紙又は桐油紙用として、福島縣に傘提灯其他袋用として岩手、青森の二縣に又漉返しは東北六縣、群馬、埼玉、東京方面に賣行良好である。

生産者 名取郡中田村北三番地 阿 部 太 吉

同 柳生六十番地 阿部 久右衛門
 同 郡中田村 阿部 亮作

◎蓼製品 年産額 三十四萬二千圓

縣下各郡に産す其沿革は文献に徴するものはないが、自家用として普及したるに始まり、又近年凶作水害に際し、罹災民救済の目的を以て、大に斯業の發達を奨励した結果、黒川郡鶴巢の薙、桃生郡二俣村の塩吹、登米郡、遠田郡、栗原郡等の繩は名聲遠近に普くその製品の主なる仕向地は三陸沿岸の漁場である。

生産者 登米郡南方村 元南方製繩組合
 同 佐沼町 佐沼製繩組合
 同 登米町 小島製繩副業組合
 同 淺水村 淺水製繩副業組合
 同 上沼村 上沼製繩副業組合
 黒川郡鶴巢村 無限責任鳥屋購買販賣組合
 同 鶴巢村北目 大崎蓼工品組合

◎蘭製品 年産額 二十一萬六千圓

現に名取表、栗原郡の迫表、登米郡の西郷表等は有名なもので、名聲夙に近縣に知れ

てゐる、創業の年代詳かでないが、名取郡の如きは遠く數百年前より製織に従事したるもの、如くである、明治三十四年岡山縣より教師を招聘して蘭草栽培の方法を指導し、併せて改良織方を傳習せしめて以來銳意斯業の發達に努めた結果、販路も著しく擴張せられ、福島、山形、岩手、青森、北海道等に移出せられたるも、近年岡山其の他競争品の爲めに販路を浸害せられ、幾分減退の傾向である。

生産者 名取郡下増田村字土手東一番地ノ一 大友 ひさの
 同 下増田字茶畑前三十三番地 武田 しなよ

◎木 炭 年産額 二百二十三萬五千圓

創業の年次詳かでないが、往昔より山間地方に於ける農家の副業として縣下各地に産し、大正八年以來縣直接製炭改良教師を各郡に派遣し、講習會を開催し、大に製炭方法を改良し、その優良品は刈田郡、登米郡、加美郡等に多い木炭は仙臺市、志田郡を除くの外各郡に産す、販路は斯業の改良發達と共に、輒近著しく京濱地に移出せらるるに至つた。

生産者 加美郡小野田村字鹿原内坪三六番地 常陸 貞治
 同 字鹿原ノ上十番地 常陸 貞一郎
 登米郡米谷町字相川七八 阿部 由之進

◎挽物及曲物 年産額 挽物 九萬二千圓 曲物 四萬五千圓

創業の年次詳かでないが、主として温泉地帯である。刈田郡宮村、玉造郡鳴子町、加美郡宮野村等に名あるを以て、従来温泉土産として發達せるもの、如くである、販路は概ね地廻であるが山形、岩手、秋田の三縣に移出せられてゐる。

生産者 玉造郡鳴子町湯元八十八番地 高橋武藏

◎木地塗 年産額 十六萬五千圓

従来温泉土産に起りたるものなるも、創業詳かでない、縣は大正十年鳴子町に工業講習所を設置し、爾後三ヶ年専ら職工の養成に努めたる結果、最近に於て長足の進歩を見るに至つた、一般堅牢なるを以て歓迎せられ、最近東京その他の都市にも販賣されてゐる。

生産者 玉造郡鳴子町八十六番地 菅原甚藏

◎菅製品 年産額 四萬八千圓

菅繩菅笠等で縣下栗原及登米の二郡に産す、栗原郡の菅笠の創業の年次詳かでないけれども、登米郡の菅繩は明治八年水害の際、罹災民救済に傳習を始めたこと云ふのである、斯業の状況は一時不況に陥つたが、地方農家の需用も又少くない。

生産者 登米郡米山村中津山字羽場四九番地 高崎寛

◎白 箸 年産額 六千圓

原料は青皮樹と稱する「カヘデ」で、柴田郡川崎村を主産地とし、製品は地廻り多きも、山形縣及北海道に僅か移出せられてゐる。

◎杞柳細工 年産額 一萬五千圓

杞柳細工は遠田及栗原の二郡に産す、然れども現に行はるゝのは遠田郡で、其の産額不尠杞柳細工は、明治三十八年郡農會の事業として、職工見習を岐阜縣に派遣し養成したに創まり、爾來傳習所の開設及其他の方法に依り、職工の養成に努め以て今日に至つた、販路は縣内の外栃木、茨城、福島、山形、秋田、岩手、新潟の各縣並に北海道等なるも、漸次販路狭められ、原料の約六割は岐阜縣に移出せられてゐる。

生産者 遠田郡涌谷村 涌谷町杞柳細工同業組合

◎禾 箒 年産額 八千圓

名取郡長町諏訪部落に産する禾箒は、産額最も多く夙に名聲を博した、同地の製品は明治三十五年頃の創業であると謂ふ事である、近年同業者銳意製品の改良に努めた結果東北五縣に移出し、漸次販路を擴張しつつある。

生産者 名取郡長町郡山字諏訪前十九番地 田代今朝治

同 郡山五番地 福地金治郎

◎納豆 年産額 十萬圓

納豆は古來農家の自家用として製産せられたものであるが、就中玉造郡岩出山町の銘産として、獨特の製法に依り其の風味を賞揚せられ、現今仙臺市、岩出山町等に盛に産し、販路は主として地廻りである。

生産者 玉造郡岩出山町四百三十一番地 佐々木 林藏

◎ホームスパン

縣下に於ける緬羊頭數一千頭、年々約五千封度の羊毛を生産し、其の大部分は陸軍省千住製絨所に賣却したるも、大正十二年技術傳習として、茨城縣友部飼羊場に見習者を派遣せし以來、其の製造法の容易なるを以て、輒近之が紡織するもの多く、殊に本年度に於ては本省指定の補助金を受け、指導獎勵を加へたる結果、更に面目を一新した、本秋特別大演習御統監の爲行啓あらせられた際、攝政殿下に於かせられては、産業獎勵の思召を以て該品御買上げの光榮に浴し、之れが爲一層郷輩の蹶起する所となつた。

生産者 登米郡米谷町字元町一九一番地 龜 卦川 はるよ

同 登米町 伊 達 寧 祐

伊具郡緬羊畜産組合

◎鯉節 年産額 百八十萬圓

産地は本吉郡、牡鹿郡、桃生郡、宮城郡の海濱地方である、明治四十年以來靜岡縣より教師を傭聘し製造法に改良を加へた結果、近來品質著しく良好になつたのと、價額低廉なるを以て需要夙に多く、今や東京市場を始め大阪、長野、山形等の二府二縣に移出されつゝある現況である。

生産者 本吉郡氣仙沼町 村上 米治

◎鹽 辛 年産額 十萬五千圓

従來自家用として製せられたものであるが、最近夙に需要を増したる鯉節の副産物として鯉、錫、雲丹等を材料として盛に製せらる、本縣産は材料の新鮮なると、味付の優良を以て名あり、主なる販路は長野、山形、秋田の三縣である。

生産者 本吉郡氣仙沼町 宮城縣 水産講習所

◎干 錫 年産額 二萬五千圓

従來本吉郡氣仙沼町を中心として盛に製せられ、販路は地廻りが主であるが、最近神戸市、新潟縣、秋田縣等に移出せらるゝに至つた。

生産者 本吉郡氣仙沼町 宮城縣 水産講習所

同 小 松 安 治

◎晒和布 年産額 八萬圓

鳴戸式晒和布の製造は十數年前本吉郡大谷村歌津村、牡鹿郡鮎川村に於て傳習を受け
たのを創始として、今や本吉郡歌津村を中心として該製造の改良發達を圖りつゝある
が、尙本郡産出原料の約五割強は原料灰乾和布の儘、徳島縣地方へ移出せられつゝあ
るの現況である、製品は近來東京市場其他山形、秋田の二縣に移出せられてゐる。

- 生産者 本吉郡歌津村字伊里前三十三番地 高橋 進 涉
- 同 郡同村同二十六番地 菅 野
- 同 三百二十六番地 三 浦 春 治
- 同 百二十七番地 及 川 清 作
- 同 九十一番地 歌津村漁業組合
- 同 郡氣仙沼町 宮城縣水産講習所
- 同 郡階上村字長磯牧通 三 浦 きよみ
- 同 階上村漁業組合

秋 田 縣

◎實子網 年産額 十萬五千圓

從來海岸に面せる南秋田郡、其他河邊郡に産し、主として婦女子、子供の手に依り作
製せられ、北海道、青森等に販路を有して居る、本縣産のものは、海中に入るれば金
色を放ち、魚類は網を抜け過ぎることなく、網に添ふて袋に入り來るため、綿糸網に
優るとの定評がある。

- 生産者 秋田縣土崎港町 合名會社 喜藤商店

◎實子繩 年産額 二十萬三千圓

從來南秋田郡、河邊部の二郡に産し、低廉にして、品質堅牢保存年限長きを以て喜ば
れ、北海道及樺太又は本州沿海の漁場に移入されて居る。

- 生産者 秋田縣南秋田郡太平村 嗟 峨 猪 一 郎
- 同 佐 川 民 治
- 同 河邊郡仁井田村 伊 藤 三 郎

◎大間繩、中間繩 年産額 四十四萬圓

本縣産のものは、目下手絢多く、品質強靱なるを以て名あり、主として南秋田郡、山

本郡、河邊郡に産し、他の諸郡も亦之を産し、北海道、樺太に移出せられて居る。

生産者 南秋田郡外旭川村

有限責任旭川村信用購買販賣組合

同 下新城村

安田 三 太

河邊郡川添村

佐藤 三 太

同 四ッ小屋村

川村 ア ネ

◎ 苳 年産額 二十二萬圓

本縣産の苳は、主として昆布覆用及荷造用の干苳、家或は小屋等の敷苳、其他穀物乾燥用苳等多く南秋田郡が産出最も多く、河邊郡、山本郡、仙北郡等にも産し、北海道根室地方に移出せられて居る。

生産者 南秋田郡上井河村

上井河信用購買販賣組合

河邊郡川添村

佐藤 シ ケ

同

鈴木 ハ ル

◎ 箸 類 年産額 四萬五千圓

本縣産の木箸は其の材料を豊富なる秋田杉に求め、將來斯業の發展を見るに於ては、多額の生産量を見るに至るべく、目下は主として手割で會席箸、片割箸、桎割箸、追割箸等を製し、東京を主とし大阪、京都地方に移出せられて居る。

生産者

南秋田郡川尻村

加藤 カ ネ

山本郡能代港町

大 山 長 治

秋田市船大工町

壽 松 木 二 郎

同 保戸野

羽 生 忠 三 郎

◎ 箕

樺太、北海道、山形、青森の諸縣に移出し、主として南秋田郡太平村、仙北郡雲澤村の兩村に産し、價格低廉なるに比し、品質堅牢にして、耐久力大なるを以て歓迎せられて居る。

生産者

南秋田郡太平村

箕 工 業 組 合

同

渡 邊 金 之 助

◎ 魚貝罐詰

本縣産の魚貝、罐詰類には、蜆時雨煮、公魚濱焼、白魚水煮等あり、主として東京地方に販路を有して居る。

生産者

南秋田郡土崎港町

大 川 龜 吉

◎ 紫麻織

せんまいの纖維を紡ぎ、綿絲と交へて織れるもので、由利郡龜田町に産し、ネル地の

代用、婦人用合羽、被布、初夏の單衣等に用ひられ、濕氣を引かざる特徴あるを以て一般に賞用せられ、目下主として宮城、愛知、新潟、山形地方に販路を有して居る。

生 産 者 由利郡龜田町

羽後龜田織物株式會社

◎紫根染、茜染

紫根染はかづの紫絞又は南部絞とも稱せられ、鹿角郡花輪町に産し紫草の色素と「にしこり」なる澁木の灰に依り染色したるもので、進歩せる化學の力を以てするも模倣し能はざる古雅優美の染色法である、羽二重、長繻絆、夜具地等に供用せられ、本邦獨特の染織である、主として東京に移出して居る。

生 産 者 秋田市縣廳橋通

那 波 吳 服 店

◎鷹匠足袋 年産額 二十八萬圓

明治三十三年金親清助なるもの、創業以來努力敢行により牢乎たる基礎と絶大なる信用を博し、今や其名噴々縣外に知らるゝに至れり、一般労働者間に大に歡迎せられ、主として樺太、北海道、臺灣、朝鮮滿州等の新開地に移出せられてゐる。

生 産 者 秋田市本町

鶴 屋 清 兵 衛

◎樺細工 年産額 十一萬五千圓

仙北郡角館町、北秋田郡大館町に産し、樺と稱する山櫻の樹皮を剥ぎ貼付して精製琢

磨して美麗な光澤を發せしめ、製品は煙草入、菓子器、硯箱、其他各種の携帶品、室内裝飾品とし一種の滋味あるを以て一般の需要者に愛好せられて居る。

生 産 者 仙北郡角館町

安 藤 清 藏

北秋田郡大館町

栗 盛 久 吉

◎木通蔓細工 年産額 一萬八千圓

明治三十七八年戰役の際、出征軍人家族の救済に努むるに際し、其の戰死遺族及廢兵に適業なるを唱導し、青森縣から教師を聘して傳習せしめたるに始まるもので、今や一の家庭工業と爲り、主として秋田市、鹿角郡に産して居る。

生 産 者 鹿角郡花輪町

奈 良 市 之 丞

秋田市西根小屋町

齊 藤 得 三 郎

同 市茶町扇の町

鈴 木 和 一 郎

◎佃 煮 年産額 五十萬圓

本縣産の佃煮は主として、ごり、わかさぎ、ゑび、白魚で南秋田、山本二郡に跨る、八郎湖より産し、明治二十七八年戰役中縣に於て之が製造を奨勵したるに端を發し、今や中央市場に噴々たる名をなすに至つた、東京、京阪地方、北海道等に販路を有して居る。

生産者

南秋田郡大久保町
同 船越町
山本郡鹿渡村
同 濱口村

船東小魚製造同業組合
男鹿小魚製造同業組合
大野富藏
金子チエ

◎果實罐詰類

年産額 三萬八千圓

本縣に於ける罐詰類の主なるものは主として果實類で椗梓、梨、桃、櫻桃及茸類である、就中鹿角郡の椗梓及山本郡の西洋梨は、本縣の特産として夙に江湖の賞賛を博し、又茸は雄勝郡の「なめらこ」が有名である。北海道、東京に輸出して居る。

生産者

椗梓罐詰 鹿角郡宮川村
ナメラコ罐詰 由利郡矢島町

有限責任宮川村信用購買販賣組合
須貝久平
宮崎秀松

◎落砂糖漬

落は秋田縣の代名詞とも言ふべき特産物の一で到る所に繁茂して居る、落の砂糖漬は明治十五年頃高橋左衛門なるもの、工夫發明に依りて創製せられ、主として北海道及近縣に搬出せられ、土産品として販賣せられて居る。

生産者 秋田市上通町橋詰

塚本幸三郎

◎眞綿

年産額 五萬圓

雄勝郡、平鹿郡、北秋田郡地方に産す。

生産者 雄勝郡湯澤町
同 北秋田郡十二所町
同 平鹿郡山内村
同 同

原田泰藏
松高鶴之助
渡邊キエ
下村タツエ
高橋オゲ
下村キ
村

時節柄質澤品は絶対に避けねばなりませぬ然し雨傘は各御家庭共備品として是非本無くてはなりませぬ本品は舊來品と異なり骨竹を節約し現代の實用本位に精製なしたる程願ひます

實用新案第八一四三號
式上砥



御使いなれば直ぐ
其眞價が判る
家庭實用本位の傘

製造、販賣、特約、店募集す
一、和傘の致命症は接合部でありませぬ其接合部を純亞鉛板製で取付てありますから從來品の如く親骨の節欠は子骨の割羽より割損する事故風雨に遭過し飄搖するも破損の憂なし
福島縣山門郡大和村
砥上壽太郎

月刊 雜誌 副業

各種の副業に關し毎
號專門家の指導を實
際に行はれてゐる事
例が掲載されます

發行所

日本産業協會

振替東京三六六〇番

東京市麴町區内山下町一ノ一

山形縣

◎草履表 年産額 百〇六萬七千九百拾九圓

該副業の起源は遠く文政年間にして、西、東、北村山郡の各郡を主産地とし、近來最上、西置賜、飽海郡等にも普及するに至つた。由來草履表の製造は、他府縣に於ては或部落に限定せらるゝの感あるも、獨り本縣にては農家唯一の副業たるは、他に誇るべき點とする。販路は内地、滿鮮、南洋等頗る廣汎である。

生産者	西村山郡谷地町	今野	み	や
同	同	佐藤	寅	治
同	同	高橋	吉	太郎
同	同	佐藤	與	吉
同	同	渡邊	勝	太郎
同	同	安彦	四郎	兵衛
同	同	加藤	庫	之助
同	同	溝延村		
同	同	左澤町		
同	同	三泉村		

◎麻裏草履 年産額 七十五萬三千七百四十足
從來草履表の儘移出したるも、獎勵の結果年々之が産額を増加し、家庭副業として最

も重要な地位を占むるに至つた。殊に西村山郡谷地町今野商店にては種々研究の結果各種優良なる製品を産出し、販賣額亦縣下隨一である。

生 産 者 西村山郡谷地町 今 野 み や

◎繩 年産額 五十萬圓

繩は縣内至る所に産し、其内最も盛んなるは莊内地方にして、飽海郡を最とし、總産額の三割五分を占む、現在縣外移出高二拾五萬圓餘に上り、北海道を唯一の顧客とす、酒田薬工品輸出商同業組合は其の創立最も舊く、組合長秋野平藏氏を始め、組合員協力一致常に生産額の増加と之が統一に腐心し、成績頗る見るべきものがある。

生 産 者 酒田薬工品移出商同業組合

◎苴 年産額 拾五萬千六百拾四圓

産地は南村山、飽海、東田川郡等にして、就中南村山郡産出のものは品質極めて優良にして、販路は縣内は勿論福島、宮城、秋田縣等である。

生 産 者 南村山郡金井村 岡 崎 光 藏
同 伊 藤 宗 吉

◎春

縣下至る所に産するも、東村山郡大曾根村志鎌春製造副業組合の生産に係るものは、

品質優良にして、價格低廉である。

生 産 者 東村山郡大曾根村 志鎌春製造副業組合

◎麻布紙 年産額 二萬五千圓

南村山郡西郷村高松の産にして、纖維強靱なるを以て特長とする。元享年中高松光明院の僧光閏なるもの漆器製造及造花用のため發明せるものにして、夙に漆漉用として各地に移出し遂に今日に及んだものである。

生 産 者 南村山郡西郷村高松 齋 藤 卯 之 助
同 加 藤 彦 吉

◎將棋駒 年産額 五萬千八百圓

東村山郡天童町の産にして、販路は奥羽六縣北海道、新潟縣等を主とす、近來海外にも販路を擴張し、殊に共同組織奨励の結果、一層優品を産出するに至つた。

生 産 者 東村山郡天童町 有限責任天童將棋駒製造信用購買組合
同 緑 彦 治

◎笹野彫 年産額 千八百五拾圓

南置賜郡上長井村笹野の産にして、此村に大同二年坂上田村鷹將軍の建立と傳ふる笹野觀音堂あり毎年陰曆六月、十二月各十七日に例祭を行ふ、此の日縁起物として造花

及び玩具を賣出を例とす、之即ち笹野彫にして工夫細緻の美なしと雖も、野趣掬すべきものがある。東京、大阪方面に移出し、殊に花柳界の歓迎を受く。

生産者 南置賜郡上長井村 笹野玩具副業組合

◎なめこ鐘詰

本縣獨特の茸にして、榎茸とも稱す、風味頗る佳なるを以て、近來各方面に販路を擴張し、總ての需要に應じ得ざる状況である。最上郡農會にては夙に原料の儘一部商人に買收せらるゝの弊を痛嘆し、共同組織獎勵の結果、現今各地に副業組合の設立を見、年々産額を増加しつつある。

生産者 最上郡農會

◎からし漬

由來南置賜郡窪田村は茄子の産地にして、其産額相當多額なるも近來生産過剰の弊に苦しみ、之れが處理に腐心しつつある折柄、偶々今井商店にてはからし漬を考案し、日尙淺きも各地より好評を受け得るに至つた。

生産者 南置賜郡窪田村 今井新一

◎豚旭漬

豚旭漬は「小松ハム」と共に、縣下に於ける豚肉加工の霸王にして、風味甚だ良好な

るを以て、全国各地に移出しつゝあるものである。

生産者 最上郡新庄町 吉田芳吉

◎わらび粉

縣下小國郷は僻遠の山村地にして、此の土地より生産するせんまい乾は交通の關係上新潟産として搬出せらるゝ、わらび粉も此の地生産にして、工業用とし注文盛である。

生産者 西置賜郡津川村 高井新左衛門

◎鯉及び金魚

本縣に於ける養鯉事業は、逐年堅實なる發達をなし、殊に池沼利用は成績特に見るべきものがある。長岡松之助氏は斯業に對し造詣最も深く、畏れ多くも過般

攝政宮殿下行啓の際、養鯉四疋を赤坂御所に献上御嘉納の光榮を荷ふたのである。生産者 最上郡新庄町 長岡松之助

◎鯉苗及金魚

長野、群馬縣等に於ける稻田養鯉は夙に世に宣傳せられ、飽海郡の稻田養鯉は歴史最も舊く、過般農林省高蒲治太郎氏飽海郡本楯村伊藤氏の養鯉事業を視察せられ、隠れたる功勞者として讃稱した。

生産者 飽海郡本楯村 伊藤卯之助

營業種目

養兔副業獎勵指導
 養兔ニ關スル一切ノ仲介
 優良種兔ノ分讓
 生産兔ノ賣買
 兔毛皮賣買及加工
 試驗用兔納入
 兔肉料理經營
 兔肉卸小賣
 福兔粕漬製造

福島市字新町北二十二番地



福島縣養兔副業組合事務所
 同組合直營兔肉料理試食堂

電話福島 七五七番
 振替口座仙臺 五五四〇番
 電 略 (フ ト)

福島縣

◎梨 年産額五十六萬圓

信夫郡野田、庭坂の兩村が中心である、明治十九年頃野田村字萱場鳴原佐藏同地方笹木野と稱する平野の梨栽培に適する事を知り、開墾植栽したるものである、それが該地方梨樹栽培の嚆矢であると思はれる、品質佳良で萱場梨と稱せられ東京、關西方面に主に移出して居る。

生産者 信夫郡野田村笹木野 原梨園共同販賣組合

◎柿 年産額 七十萬圓

會津地方の身不知、安達郡の西念寺を主とし、風味の佳良なるは稀に見る所で、東京、關西及北海道方面に多く移出せられ、又蜂屋柿は伊達、石城の兩郡最も産額多く、柿柿或は枯露柿となし縣外に相當移出せられて居る。

生産者

(西念寺) 安達郡本宮町字鍋田 野内政治
 (會津身不知) 北會津郡門田村大字一ノ堰 農事實行組合
 (同) 同郡同村大字御山 北御山農事實行組合

- (會津身不知) 北會津郡門田村御山
 - (同) 同 同村大字南御山
 - (同) 同 同村大字面川
 - (同) 同
 - (同) 同 同村大字一の堰
 - (同) 同 同村大字堤澤
 - (蜂屋柿) 伊達郡青木村字廣表二〇
 - (同) 同 半田村
 - (同) 同 桑折町
 - (玉川柿)(生食用) 同
 - (富有柿) 同
 - (同) 同 保原町
 - (同) 同 藤田町
 - (蜂谷柿) 同 桑折町
- 西分出荷組合
農事實行組合
花坂農事實行組合
大戸柿組合
柿出荷組合
柿出荷組合
伊藤邦藏
早田斌
安彦倉吉
同
細貝順一
有限責任伊達中央果實生産販賣購買組合
奥山鶴治
齋野豊治郎

◎藥用人蔘 年産額 四十二萬圓
會津地方の特産物で徳川家光公の頃朝鮮から種子を求め初めて之を日光に植へたもの

であつたが、其後會津藩主御藥苑に移植し頗る良好な結果を得たので、廣く農民に栽培を奨めた、販路は主に横濱の商人の手を経て支那に輸出せられて居る。

- 生産者 河沼郡坂下町字新町 江川金三郎
- 北會津郡門田村一ノ堰 農事實行組合
- 大沼郡永井野村 長嶺繁八

◎蒟蒻芋 年産額 九十四萬圓

主産地は東白川、石川、石城の三郡である。文政年間東白川郡高城村某、隣縣茨城縣太子地方から種子を持ち歸り栽培して頗る有利であつたので、漸次廣く栽培せらるゝに至つた。然れども一時病害の爲め、其の産額激減したのであるが、最近又著しく増加して、生産者は之を加工し、荒粉になし販賣するに至つた、又更に商人は精粉となし、主として東京、大阪の市場に移出して居る。

- 生産者 東白川郡高野村 鈴木芳太郎
- 石川郡中谷村大字谷澤 小針丹波
- 石城郡田人村大字黒田字大澤 蛭田重平

◎芋 年産額 一萬五千圓
大沼郡大芦、野尻、川口村地方の特産で、其の來歴は詳かではないが、今を去る百有

餘年前新潟縣から移入したものであると云はれて居る、之が販路は大部分新潟縣小千谷縮の原料として同地方に移出される。

生産者 大沼郡野尻村大字野尻 (權現堂) 山内寅治 同 大芦村 村農會

◎繩 年産額 十八萬三千圓

信夫郡杉妻村、大沼郡新鶴村、相馬郡眞野村、西白河郡白河町、耶麻郡松山村、堂島村地方に相當の生産がある。大部分は縣内に於て消費せらるゝが、亦關東方面にも移出することもある。

生産者 耶麻郡松山村大字村松 山口庫吉 同 郡堂島村大字四奈川字萬力 山内勇馬 西白河郡白河町字鍛冶町 小川豊次郎 同 郡同 町 副業製繩共同組合 相馬郡眞野村字大久保 岡定衛

◎蕨 年産額 七萬九千圓

信夫郡余目村、相馬郡日立木村地方に製造が盛んである。 草野ミノブ 生産者 相馬郡日立木村大字立谷字稻荷前

◎兔肉粕漬 年産額 三千五百圓

福島市内に於て製造せられ、主なる販路は縣内及東京並隣縣である。 福島縣養兔副業組合 生産者 福島市字新町北

◎笹 年産額 七萬三千圓

安積郡日和田町並相馬郡八幡村地方の産額最も多く、逐年各郡に於て竹細工講習會を開催する向益々増加しつつあるので、品質の改善は固より其の産額も増加しつつある、之が主なる移出先は北海道、東京方面である。

生産者 郡山市 安積郡農會 相馬郡八幡村大字今田字大竹 佐藤盛

◎木 箸 年産額 八千圓

岩瀬郡濱田村及西白河郡中畑村地方の特産物で、之が創始は前者は明治三十一年頃、後者は同十八年頃であると言はれて居る、何れも組合を組織し、品質の改善に努め、製品は共同販賣をなしつつあつて主なる移出先は茨城縣及栃木縣である。

生産者 岩瀬郡濱田村大字前田川字福荷田 佐藤半四郎 西白河郡中畑村字稻荷 草野源一 同 字釜ヶ入 草野喜代太郎

◎木工細工 年産額 十二萬圓

南會津郡田島町附近最も盛にして、縣に於て近年益々木工傳習會を開設し、専ら製品の改善に努めた結果、今や優良品の産出を見るに至つた、主なる移出先は東京、栃木、新潟、静岡等である。

生産者 南會津郡館岩村

星 與惣左衛門

同 田島町

小林 喜作

◎三春駒(小青木馬) 年産額 百五十圓

田村郡高野村大字高柴字福内一農家の副業として製造せられてゐるもので、舊藩時代は其の藩に御用木馬師として抱へられ、而して其の製品は絶対に他に之を販賣するを禁せられて居たと言ふことである。現今に於ける主なる移出先は山形、東京、大阪である。

生産者 田村郡高野村大字高柴字福内 橋本 廣貞

◎美術的竹細工 年産額 二千五百圓

東白川郡常豊村、信夫郡笹谷村地方に生産せられ、販路は殆ど縣内であるが、多少東京方面に移出されて居る。

生産者 東白川郡笹原村

星 幸義

◎滑茸罐詰 年産額 六千圓

耶麻郡猪苗代町、奥川村、吾妻村に製造家があつて、縣に於ては最近年々奨励金を交付し、滑茸罐詰傳習會を開催せしめた結果、逐年産額増加を見るに至つた、主なる移出先は新潟、東京である。

生産者 耶麻郡猪苗代町 菅野 藤重

◎筍罐詰 年産額 六千圓

耶麻郡吾妻村に於ては、大正十三年六月滑茸筍罐詰副業組合を設立し、相當の生産があつた、移出先は主として東京方面である。

生産者 耶麻郡吾妻村 滑茸筍罐詰副業組合

◎紫 蕨 年産額 五萬圓

南會津郡最も産額多く販路は主として東京、大阪である。

生産者 南會津郡農會

◎搗 栗 年産額 十一萬五千圓

主産地は南會津郡田島町並同郡旭田村附近で主なる販路は東京、大阪、神戸である。

生産者 南會津郡田島町大字田島 高橋 忠吉

◎下駄材 年産額 十九萬圓

大沼、河沼の兩郡最も生産多く、主なる移出先は東京、關西方面である。

生産者 河沼郡坂下町(あづまや)

大沼郡西川村

渡邊 四平
福田 延藏

◎木炭 年産額 五百九十二萬圓

石城、双葉の兩郡最も産額多く、其の他各郡共何れも相當の生産あり、從來品質粗惡で俵裝不統一の嫌ひもあつたが、大正七年會津東部同業組合が組織せられ、漸次全縣下に普及し、現今五組合の設立を見、専ら品質の改善俵裝の統一を圖りつゝある結果、今や東京市場を始め、群馬、埼玉、千葉に移出し大に名聲を博するに至つた。

生産者 石城郡植田町大字植田字金畑

香取 吉藏

◎鯉節 年産額 百二十八萬圓

本縣産鯉節は曾ては市場に粗惡品として取扱はれ、其の價格の如き亦極めて安價なものであつたが、明治四十二年以來補助政策を以て縣下重要漁村は鯉節製造傳習所を設置し、静岡縣から教師を招聘して専ら職工の養成と、製法の改良を計り、爾來品質年次向上し今日に於ては、磐城節として市場に多大の信用と聲價を博し、殊に石城郡江名町では江名節として東京市場に販出して名聲を博して居る。

生産者 石城郡小名濱町字古港

野崎 才助

石城郡小名濱町字古港(スヤ)

野崎 武兵衛

同 江名町大字江名字北町

加澤 一造

同

中田 房五郎

同

江名濱漁業組合

同

有限責任江名信用販賣購買利用組合

同

遠藤 藤之丞

同

鈴木 松治

同

大和田 安太郎

字新町(水戸屋)

◎乾北寄 年産額 二萬圓

相馬郡磯部村地方の特産で、主なる移出先は山形である。

生産者 相馬郡磯部村大字磯部

蛭原 專治郎

同

高坂 子之吉

同

高加 甲子藏

◎塩 辛 年産額 一萬圓

生産者 石城郡小名濱町字古港(スヤ)

野崎 武兵衛

同 江名町

株式會社共榮商會

◎鯖罐詰 年産額 一萬圓

東京、大阪、名古屋方面に移出して居る。

生産者 石城郡四倉町字新町(鱈屋)

吉田 彌十郎

◎鳴戸若布 年産額 五千圓

生産者 石城郡江名町

株式會社共榮商會

◎鯉大和煮 年産額 五千圓

生産者 石城郡江名町

株式會社共榮商會

◎節 絹 年産額 百十四萬圓

信夫郡岡山村、松川村、伊達郡飯野村を中心として古くから盛に産出せられたものである、而して之が販路は主に京都、大阪方面である。

生産者 信夫郡松川村字本町

齋藤 金介

同

杉内 榮助

伊達郡桑折町

大内 定治郎

同 川俣町

大内 彌惣兵衛

◎眞 綿 年産額 五十萬圓

本縣獨特の袋眞綿は、伊達郡保原町を中心に、古來から婦女子の副業として之が製造

に従事するもの多く、而して製品は大部分東京、結城方面に移出して居る、一面時代の趨勢に鑑み、近年角眞綿の製造法を奨励の結果、今や漸次優良なる販賣品の産出を見るに至つた。

生産者 郡山市

安積郡農會

双葉郡富岡町

富岡町農會

伊達郡柱澤村

石神 長治

同 保原町

保原蠶絲同業組合

同

熊坂 次郎

◎管 笠 年産額 四萬五千圓

田村郡逢隈、巖江、小泉、中妻の四ヶ村が製産の中心であるが、之が起源に就ては明瞭ではないが、傳説に依れば日本武尊東征の際始めて其の製造法を學んだものであると言はれて居る、移出先は栃木、茨城、宮城方面である。

生産者 田村郡巖江村

巖江村農會

相馬郡鹿島町南右田字柳下

米倉 ヨッ

◎麵 類 年産額 五十八萬圓

岩瀬郡須賀川町を中心に生産せられ、主なる移出先は東京、新潟、山形、宮城等であ

る。

生産者 岩瀬郡須賀川町（井桁屋）

高久田 甚吉

◎蜀黎箒 年産額 三千五百圓

石川郡小塩江村地方の特産で、主に鐵道省に納めて居る。

生産者 石川郡小塩江村大字堤字仲屋敷 安藤 喜助

◎紙 年産額 五十三萬圓

安達郡上川崎村が最も産額多く、年々三十萬圓以上に達し、主なる移出先は宮城、山形、新潟、東京である。

生産者 安達郡上川崎村大字上川崎字本佛谷 安齋 保次

◎真太織 年産額 五萬圓

福島市を中心に産出せられ、之か用途は羽織、コート地として用ひられ、主なる移出先は京都、東京、大阪等である。

生産者 福島市大町 油井 商店

茨城縣

◎結城紬

結城紬は我國の織物として最も古い歴史を有し、我紀元一千三百年代の終から結城町を中心とする下總、下野、常陸の三國に於て綾の貢物を納めしことがあり、此の頃は今日の太織であつて、醍醐天皇延喜頃に隆盛を極め最も精良なる織物を産出したのであるが、其後一時衰退し、綾織と化し、命脈を繼ぎ後醍醐天皇の朝に至り紬を以て名を著し、常陸紬と稱した其後二百五十年天下亂れ民業大に衰へたけれども、常陸紬は尙能く天下に知られ、其の産出地は結城城主の領内常總野の三州に跨つてゐたのである、之れ即ち結城紬の前身で、文祿以後結城領四分五裂の状態を來したとき、始めて結城の地名を冠して結城紬と稱したのであると言はれて居る。古來結城町を中心として常總野に跨つた産地は、近年常陸に於て殆ど發達の跡なく、却て栃木縣に擴まり同縣下都賀郡絹村、河内郡吉田村等から盛に産出せらるゝに至つた、從來總戸數は三千餘にして、茨城、栃木兩縣の比較は四分六分である。

生産者 結城郡結城町

犬丸 治三郎

同 馬場 治平

結城郡結城町

- 同 中谷 伊三治
- 同 奥澤 庄平
- 同 鈴木 新平
- 同 藤貫 榮太郎
- 同 木村 興平

◎凍蒟蒻 年産額 四千二百貫 價格四萬圓

縣下高倉村で凍蒟蒻の生産を創めしは、何れの時代か分明しないのであるが、文化二年文公様(領主水戸藩侯)御國巡りとして來村の時土地の土産として凍蒟蒻、紙、煙艸等を献上したと云ふことが、村内の記録に残つて居るから、文化年間に既に高倉村で製造されたるものゝやうである、或る口碑によれば隣村天下野の木村謙次氏或年關西地方に遊び、丹波の國に於て凍蒟蒻製造販賣の法を研究し、歸つて之を居村に傳ふるゝとあるが詳かならず、按ずるに其の起原は丹波の國から傳來したるものであらう。

生産者 久慈郡高倉村下高倉 小室 富之進

◎マニラ麻真田 年産額 三十萬圓

磯濱町に於てマニラ麻真田の製造を始めしは大正元年であつて、同町の鹿志村氏等商業上の關係を以て横濱に往復中真田製造業の有利なるを認め、又之に附隨する麻糸繼

ぎは三濱地方の商家及漁業家の副業として適當なることを覺り、工場を設備し、器械五十臺を以て着手したのに始まる、其後同業を開始するもの増加し、最近に於ては十工場器械二十臺を有し、益盛況を呈するに至つた、神戸、横濱の輸出商を経て歐米各國に輸出して居る。

生産者 東茨城郡磯濱町 菊地 鐵次郎

- 同 伊澤 喜一
- 同 鬼澤 道之介
- 同 久保田 兵藏
- 同 清水 平衛門
- 同 岩崎 甚助
- 同 小林 彌七
- 同 大津 喜代太郎

◎座敷箒

今から約四十五年前新治郡の某當地に移住し、農業の傍ら棕栝箒及草箒を製造販賣してゐたのが、何時しか近隣の農家に於て其の技を會得するに至り、之が製造及栽培を試み、成績良好なるを以て、年を遂つて栽培者増加するに至つた、此間村及郡に於て

製造、栽培の改良に努めたる結果、優良品として一般に認めらるゝに至り、最近に於ける年産額橘村、小川町を加ふれば六万本に達し、東京市を始め千葉縣、埼玉縣等へも移出して居る。

生産者 東茨城郡小川町
同 橘村

小川町等製造組合
橘村等製造組合

◎トマトソース 年産額八萬本

明治三十年奥野村字吉原青山謹之助蕃茄種子を購入し、之が栽培を試み、漸次勃興せるに基き同四十三年頃些細の誤解から一時悲境に陥つた事もあり、漸次恢復し大正三年頃に至り、當時縣農事試験場長たりし山本氏を聘して、蕃茄に附て講習を開催し、蕃茄栽培の改良並製造法の改善を圖つたので、各戸競つて之が栽培製造に従事するに至つた、此に於て組合を設立し、基礎の強固を計り、以て今日に至つたのである。東京、横濱を始め前橋、高崎、宇都宮等に移出して居る。

生産者 稲敷郡奥野村大字小坂

齋田佳之助

◎蒟蒻粉 年産額 三萬五千貫 價格四十餘萬圓

縣下に於ける蒟蒻栽培の起源は、凡そ二百數十年前から之が栽植をなしたやうである、寛政年間に東京深川に玉會社なるものを設け、水戸藩廳では頗る其の業を保護し

たものであると言はれて居る、享和年間久慈郡諸澤村(今の諸富野村)に中島藤右衛門なるものあり、生玉運搬の不便なるを慨し、該苦辛慘の後、生玉より粉蒟蒻を製造するの法を發明し、文化年間から盛に之が製造業を起し、遠近に輸出して、其の需要を得、其後各地に其の方法に依り河川の流を利用し、水車を設け之が製造に努め、遂に一大物産となつたのであつて、文久三年に至り、久慈郡上野宮村(今の黒澤村)大工金藏なるもの粉蒟蒻の粗製を草むる爲、あほり仕掛を發明して改善に努めし結果、一般に精良品を産出するに至つた。移出は東京、大阪、東北地方である。

生産者 久慈郡大子町

川口利吉

同 上小川村

宮田篤三郎

同 河内村

根本富重

◎牛蒡 年産額 二十萬貫

縣下飯富村の牛蒡栽培の起原は明ならざるも、既に天保時代に水戸、三濱地方を始め各地に販賣せられたり、爾來年々賣行良好にして明治十五六年頃迄は盛況を呈せしも、其後各地に於て蔬菜栽培發達し、從來獨占たりし飯富蔬菜は市場に其の數を減するの傾ありしも、東茨城郡農會に於ては年々園藝共進會を開催し獎勵したる結果、再び隆

盛に趣き就中牛蒡は品質良好販路も擴張せられ、大正三年頃より東京、大阪、京都、神戸等へ移出し好評を博し居る。

生 産 者 茨城郡飯富村

飯 富 村 農 會

◎和 紙 (西ノ内紙並延紙) 年産額 西の内十萬圓 延紙五萬圓

縣下の製紙は一千年前の創始に係り、實に古き起原を有すと雖、世に現はるゝに至つたのは正徳元年久慈郡諸富野村の人西の内に開業し、所謂西内紙なるものを創製し、江戸商人と取引を開始せし以後に屬して居る、水戸家に於ては歴代斯業の發達に力を盡されしが、藩の保護を離れてから粗製濫造となつたので、縣に於ては明治十一年製紙試験場を設け、斯業の發達に盡力したのであるが、之が廢止後は縣に技術員を置き、専ら之が開發に努めて居る。

生 産 者 久慈郡諸富野村諸澤

菊 地 五 介

◎楮 年産額 黒楮三十萬貫 價格十四圓

楮の主産地は久慈郡及那珂郡で、栽植の起原は詳ならずと雖も、初め久慈郡諸富野村大字西の内に此を移植し、西の内紙を製造した事があつた、元祿年中義公其紙質の堅韌なるを嘉し、其栽培を保護奨励し、普く郡内に試植せしめ同時に製紙業を奨励したり、而して明治維新以後水戸家斯業の保護を解除してから、一時粗製濫造に流れ、聲價地に落ちて販路は杜絶したのであるが、明治十七八年頃美濃地方から注文起り、從て楮皮の價額騰貴し以て今日あるに至つたのである。

生 産 者 久慈郡諸富野村諸澤

菊 地 五 介

◎茶 年産額 二十三萬貫 價格 百三十五萬圓

縣下に茶樹の自生を見たのは、往古からであるが、由來珂北地方即ち明德、北總地方は寛文年間から漸次茶樹の栽植をなすものがあつたので、其後一進一退緩慢なる變化を爲しつゝ時代が移り横濱開港後特に本縣茶が米國人の嗜好に適し、大に名聲を擧げ、明治三十年頃は全盛の觀があつた、然し乍ら香味の點に於ては、輸出品として不評を招いたので、製造家大に觀る所あり、漸次香味良好なるものを製造し、近年大に改良の實を擧ぐるに至り、東京、千葉、東北地方に年々十二万余圓を移出しつゝある。

生 産 者 猿島郡沓掛村内野山

張 替 道 之 介

同 沓 掛

倉 持 眞 一 郎

同

木 村 元 吉

同

倉 持 三 右 衛 門

同 猿島村山崎

關 平 助

猿島郡長田村	加藤 榮 七
結城郡中結城村	安田 綱次郎
猿島郡生子菅村	飯田 新市
久慈郡佐原村大貫	吉成 誠
結城郡名崎村恩名	渡邊 良一

◎干瓢 年産額 五萬二千貫 價格十五萬圓

干瓢の原料たる扁蒲は、元栃木縣下都賀郡の本場から本縣結城郡の北部に轉栽したの
に始り、現今に於ては同郡を主とし猿島、眞壁の各郡に跨り、盛に栽培製造せらるゝ
に至つた、明治三十年頃迄は其栽培區域も極めて狭少なものであつたが、爾來漸次其
作付反別を増加し、今日では作付反別百五十餘町歩に達して居る、而して結城町下館
町又は古河町等の市場に搬出せられ、縣内の需要を充すの外は東京、大阪、名古屋地
方に販賣されて居る。

生産者	結城郡江川村	江川村農會
同	名崎村	久保留吉

◎肥料用吠 年産額 二百萬圓
行方郡の薤吠の生産は明治三十年頃、肥料及穀物用吠の需要増加するに従ひ漸次發達

し、大正三年頃から特に隆盛を見るに至つた、然るに大正八年頃生産の激増に伴ひ、
粗製品續出し、取引上不利を蒙ることがあつたので、行方郡を區域とする薤吠同業組
合を組織し、製品の検査を勵行し、改良に努めた結果、行方吠の聲價頓に騰り、需要
益増加するに至つた、移出先は東京を始め近縣各地である。

生産者	行方郡潮來町	行方郡薤吠同業組合
-----	--------	-----------

◎茨城白菜 年産額 十七萬貫

縣下に於ける結球白菜の栽培は、既に三十年の歴史を有し、當初數年間是小數者の間
に試作せられたるに止まりしが、明治四十年前後に於て支那より良種子を得るの便宜
を得、之が栽培の氣運は頓に勃興し、東茨城郡を首とし縣下各地に擴張するに至つた。
而して特に優良品を産出するは、東茨城郡上下大野附近數ヶ村にして、東京市を始め各
地に移出して名聲を博して居る。

生産者	東茨城郡農會事務所内	江東蔬菜栽培組合
-----	------------	----------

農商務省農務局編纂

副業生産品ニ關スル調査

定價金二圓五十錢

郵税二十二錢

農村振興の方策として副業奨励は其の最緊切なるものは、朝野の輿論であり、政府當局及各政黨派共之を力説して居るをも明かであるが今日迄之が計畫實行の基礎となるべき資料のないことは甚だ遺憾とする所であつたが、曩に本會が斯業奨励に資する爲農商務省に申請の上同省調査に係る有益なる資料の出版方を許可せられたので印刷に附し一般有志に實費提供することになつたのである

東京市麴町區内山下町一ノ一

發行所

日本産業協會

振替口座東京三六六〇番

栃木縣

◎麻裏草履 年産額 七十萬圓

抑々麻裏草履は、下都賀郡栃木町を中心として、副業的に盛に製造せるものであつて、表類を山形縣産最上表三重縣産の伊勢表等を輸入し、鼻緒及裏麻等附屬品は當地方産のものを以て之等の原料を加工したものである、之が製造方法も明治初年頃からは改良に改良を加へ、現在の麻裏草履となり益々需用者より歓迎を受け、漸次製造力並に販路を擴張し來つたのである。明治三十年頃からは東京、大阪、北海道、朝鮮方面にまで販路を延長し、賣行益々良好に大正元年頃から殊に著しい發展をなし、目下製造力も副業として産額多く全國は勿論、米國又は布哇方面にまで販路を有するに至つた。

生産者 下都賀郡栃木町

栃木町麻裏問屋組合

◎黍 年産額 八十萬圓

從來上都賀郡を中心として、古來から創始せられたものであるが、奨励の結果、下都賀郡地方にも及び、關東以北、北海道地方に仕向けてゐたのであるが、最近關西地方北陸地方の大都市にも販路を擴張するに至つた。

生産者 下都賀郡栃木町

栃木荒物商組合

◎荷 繩 年産額 三十萬圓

◎續細引 年産額 二十萬圓

◎手 綱 同 六萬圓

◎轆 年産額 二萬圓

◎ハタキ 同 一萬五千圓

従来下都賀郡栃木町を中心として、古来から創始せられ、奨励の結果、益々生産を高め、關東、奥州地方に販路を有して居る。

生産者 下都賀郡栃木町

栃木荒物商組合

◎麻組手 年産額 二十萬圓

◎麻細美 年産額 二萬圓

◎綿細美 同 二萬圓

従来下都賀郡栃木町を中心として、古来から創始せられ、奨励の結果、益々生産を高め、關東地方から奥州地方に仕向けてゐたが、最近關西地方及信州地方にも販路を擴張するに至つた。

生産者 下都賀郡栃木町

栃木荒物商組合

◎鼻緒眞繩 年産額 二百萬圓

従来縣下下都賀郡栃木町を中心として、明治二十五年頃から創始せられ、漸次發達を遂げ、内地各地に販路を有するに至つた。

生産者 下都賀郡栃木町

栃木麻苧眞繩商組合

◎糸堅苧 (九目花井) 年産額 七萬圓

従来下都賀郡小野寺村を中心として、古来から創始せられ、舊式の織機を改良して機械織の普及を見、當該村農會の奨励に依り、近年副業組合を組織して、保證票を織込み粗み粗製濫造の弊を除き、廣く需用地の信用を博し、主に東京、埼玉、群馬、茨城其他の都市に仕向け漸次販路を擴張するに至つた。

生産者 下都賀郡小野寺村

小野寺村副業組合

◎糸堅苧 (皆川蓮上間) 年産額 七萬圓

従来下都賀郡皆川村を中心として、古来から創始せられ、舊式の織機を改良して機械織の普及を見、當該村農會の奨励に依り、近年副業組合を組織して保證票を織込み粗製濫造を防ぎ、廣く需用地の信用を博し、主として福島、群馬、茨城、東京其他の都市に仕向け漸次販路を擴張するに至つた。

生産者 下都賀郡皆川村

皆川村副業組合

◎製紙 (西之内) 年産額 十六萬圓

製紙は往古縣下久慈郡諸富野村大字西の内に創製せしものであるが、現時は生産區域減少し、縣下那珂郡の一部と、那須郡の物産となり、古く那須紙として東京を始め茨

城、千葉、群馬、埼玉の各地に販路を有し、關西地方にも幾多の需用地があるに至つた。

生産者 那須郡烏山町

合資會社大橋商店

◎製紙(西五把) 年産額 六萬圓
浴革其他西之内に同じ。

生産者 那須郡境村大字大木須

堀江彦一郎

◎箴 年産額 五萬圓

從來足利郡山前村大字山下を中心として安政二年頃より創始せらる、主として足利、桐生等兩毛地方の機業地に供給せしも、其の後製品に種々改良を加へ、且斯業獎勵の結果、明治二十年頃から奥羽、北陸地方に販路を擴め、最近に至つては箴製造を専業とする者さへ出來て、製品の改善を計ると共に、其の販路も全國に亘り、科學の進歩に伴ひ、製品も亦縦横ヨロケ縮用リング及びスレート入織物用等の特製品を製造するに至つた。其の他最近には金箴の需用多く、従つて年産額の過半数は是等金箴を製作する様になつた。

生産者 足利郡山前村大字山下

清水安太郎
清水成志

群馬縣

◎蒟蒻精粉及荒粉 年産額 百七十萬圓

從來北甘樂郡下仁田町地方を中心として、栽培産出せられて居つたが、近年山間部が一般に普及して縣下副業生産品の首位を占むる様になつた、大正七年北甘樂郡蒟蒻同業組合を設立し、製品の検査統一に努めた結果、東京、大阪其他府縣に販出するに至つた。

生産者 勢多郡横野村大字宮田

角田雄吾

多野郡中里村

高橋幸吉

北甘樂郡下仁田町大字下仁田

北甘樂郡蒟蒻精粉同業組合

吾妻郡名久田村大字横尾

唐澤七郎平

同 大字赤坂

小林角三

利根郡川田村大字岩本

利根郡蒟蒻生産販賣組合

◎生 絹 年産額 三百萬圓

徳川幕府時代糸好絹と稱して小紋染として諸大名の袴に使用したものであるが、後一般の需要に適する様横糸へ玉糸を織込み小節絹とした、多く裏地用として東京、大阪、

京都各市場に販出せらる。大正四年以來各郡に染織講習會を開催して之れが助長に努めた結果、高崎市を中心として北甘樂、多野、碓氷、群馬の各郡より産出する様になつた。

- 生産者
- 群馬郡中川村大字大八木二、一三五 須藤 甚三郎
 - 同 大字小八木九五二 吉田 儀十郎
 - 多野郡藤岡町 島崎 平造
 - 北甘樂郡富岡町一、〇一四 清水 孫太郎
 - 高崎市田町八九 小澤 吉平

◎木 炭 年産額 六百萬圓

縣下の木炭生産は利根、吾妻、多野、北甘樂、碓氷各郡を主とし、何れも同業組合を組織して品質の改善統一を圖り、且つ縣下同業組合聯合會の設立ありて一層生産の増加と聲價昂上に努めつゝあるが、販路は縣内並に東京市場である。

- 生産者
- 勢多郡黒保根村大字水沼 小林 惠壽計
 - 利根郡沼田町甲八三一 利根郡木炭同業組合製炭研究所

◎鯉 年産額 二十萬圓

主産地は前橋市碓氷郡板鼻町、豊岡村附近にして稻田養鯉と相俟つて流水式養鯉行は

る、販路は埼玉、東京を主とし其他隣接縣である。

- 生産者
- 碓氷郡豊岡村 大塚 文男
 - 同 飯野 新太郎
 - 同 板鼻町 田中 友一
 - 前橋市田中町 前橋養魚組合長渡邊萬次郎

◎真 綿 年産額 七十萬圓

従來自家用の程度であつたが、明治三十年頃より市場に出廻り、大正三年前橋市に同業組合が設立された、最近縣下養蠶業の發達に伴ひ、屑繭利用として傳習會を開催し形質の統一と生産の増加とを圖つてゐる、販路は結城、新潟、東京地方を主なる仕向地として居る。

- 生産者
- 群馬縣澁川町 田村 斧太郎
 - 同 同 高橋 安太郎
 - 同 同 川島 和三郎
 - 多野郡藤岡町 藤岡絹糸物産株式會社
 - 前橋市甲一毛町 今井 春三
 - 同 横山町 日高 銀造

高崎市請地町

高崎眞綿業組合

◎玉 糸 年産額 二十萬圓

明治初年頃より多少製造して居つたが、伊勢崎、桐生、足利、秩父等の織物發達に伴つて著しく其の産額を増加し、何れも農家の副業として縣下至る處産出し、就中前橋市、勢多、碓氷、群馬、諸郡盛である。販路は縣内外機業家協業系業者にして前橋市場を仲介として居る。

生産者

勢多郡富士見村大字原之郷

星野元輔

◎蜀黍帚 年産額二萬圓

起源は遠く天明年間名主某勤儉貯蓄の一方として獎勵せるものであつたが、漸次發達の機運を示し、大正二年産業組合を設立して形質の改善販路の擴張に努め、今や沼田等の名各地に宣傳せられ、特産物として各地に販出せらるゝ様になつた。

生産者

利根郡川場村大字生品

有限責任生品信用組合

同 大胡町

青年會瀧窪支部

◎竹製品 年産額 三十萬圓

本縣は由來竹材に富み材のまゝ他に移出せらるゝものが多い、大正十年度以來竹細工傳習會を行ひ、養蠶具其他日用品の製作を指導し、近年頃に普及發達し、種類に依り

他に販出する様になつた。

生産者

勢多郡桂萱村大字堤

橋詰留吉

同 群馬郡金島村大字阿久津一〇四

高橋萬太郎

同 明治村大字下野田一六

布施川峯松

多野郡吉井町大字池

澁澤三郎

同 神川村大字萬場

高橋市藏

吾妻郡岩島村大字岩下

小林春次郎

利根郡赤城根村大字根利

小林芳太郎

同 佐波郡三郷村大字波志江

矢内峯五郎

同 玉村町大字上新田一六一

齋藤懋

新田郡寶泉村

宮下由平

前橋市堅町五五

島田信吉

同 桐生市本町六丁目三九八

高松傳之助

同 市末廣町一、一五七

佐瀬銀十郎

◎木工品 年産額 四十萬圓

群馬縣伊香保、四萬、草津各温泉地附近に於て多く産出せられ、土産品として需要せ

られて居るが、近年製作並仕上の傳習會を行ひ、益々品質の向上と數量の増加とを圖りつゝある。

生産者 群馬郡澁川町

高橋重三

同

水上能吉

吾妻郡原町

吾妻木工品組合

利根郡東村

古澤兼三郎

◎大麻 年産額 八萬圓

縣下吾妻郡岩島村を主産地とし、古來より魚獲網釣糸織物原料として賞用せられ、北陸、東海道沿岸、奈良、愛媛地方に販出して居つた、明治三十九年産業組合法に依りて麻組合を組織し、検査統一して品質の向上を圖りつゝあるのである。

生産者 吾妻郡岩島村大字三島

角田喜市

同

高橋文平

同

高橋仙市郎

同

有限責任吾妻麻信用購買販賣利用組合

同 大字岩下

片具新十郎

◎乾粟 年産額 三萬圓

縣下利根郡の特産にして、山村に於ける副業として好適のものである、近時接木傳習會を開催の結果、品種改良を促進し年々普及増加の傾向にあり。販路は東京、横濱を主として居る。

生産者 利根郡池田村大字中發知

齋藤正治

同

大字奈良

芝崎忠治

同

大字佐山

田村高次郎

同

大字上發知

石川正雄

同

大字佐山

田村善作

◎蕨粉 年産額一萬圓

縣下利根郡一部の産出なるも、餘剩勞力利用上好適の副業である、糊強くして光澤を生じ虫害なきを以て桐生其他の機業地に歡迎されて居る。

生産者 利根郡水上村大字藤原

藤原第一農事組合

同

中島米次郎

◎糸瓜 年産額 一萬圓

縣下多野郡平垣部に限られたるものにして、十數年前より栽培せられ、東京、横濱市場に販出して居る。

生産者 多野郡美土里村大字本動堂 山田 儀作

◎鐵砲百合 年産額 三十七萬圓

從來縣下多野郡平垣部に栽培せられ、土質好適し形質優良なるものを生産するを以て横濱輸出商方面に定評があり、近時幾分栽培減少の傾向である。

生産者 多野郡入野村黒熊 吉田 萬次郎

◎張子達摩 年産額 三萬圓

縣下碓氷郡豊岡、八幡地方に限られたる副業生産品であるが、農家餘剩勞力を家族的に巧に利用せる特色あるものである。之が沿革は八幡村少林山達摩寺開山以來製造販賣せらるゝものにして、古き歴史を有し、販路は縣内及隣縣にして、主として一、二月の縁起物として各寺院神社の縁日各都市の市日等に露店を開き販賣して居る。

生産者 碓氷郡豊岡村下豊岡二 堀江 辰三

◎下駄表 年産額 二十萬圓

從來高崎市を中心として生産せられ、最近支那産原料をも輸入し、製作の技術が著しく進歩し、生産量も亦増加し、將來益々發達の傾向である、販路は東京及大阪を主とする。

生産者 高崎市若松町 太田 嘉之助

同 前田 駒次郎
同 山木 元一郎

◎藥草 (續草、當歸、サフラン)

數年前より多野郡、佐波郡、利根郡其他に栽培せらるゝも未だ面積少く産額も亦僅少である。

生産者 利根郡白澤村大字高平 小野 勝一
佐波郡芝根村大字小泉 小林 勇吉
同 小林 啓次郎

◎割 箸 年産額 一萬圓

大正十二年度以降割箸製造傳習會開催の結果、新たに扶植したる副業生産品にして、吾妻、利根、多野諸郡の一部より産出せられ、將來有望である。

生産者 多野郡多胡村 割箸生産販賣組合
同 中之條町大字西中之條町 吾妻割箸組合員唐澤太三郎

◎蜂 蜜 年産額 二萬圓

十數年前より各地に飼養せられ、近時堅實に發達しつつあるのである。

生産者 北甘樂郡尾澤村五一 工藤 彦吉

桐生市宮本町

船戸 新八郎

◎午 莠 年産額 二十五萬貫

従來午莠の特産地として名聲を博し、數年前より大阪市場に出荷して居る。 中 島 彖 吉

生 産 者 新田郡尾島町農會長

◎山 葵 年産額 一萬圓

未だ年産額僅少なりと雖も、縣内適地多く獎勵の結果、漸次發達の傾向にある。 入 澤 友 吉

生 産 者 桐生市末廣町一、一五九

◎簾 年産額 一萬圓

縣下碓氷郡豊岡村を主産地とし、舊藩主時代に獎勵されたるものにして、産額少きも 白 田 浦 二 郎

地方特有の副業である。製品は縣内及隣縣に販出されて居る。

生 産 者 碓氷郡豊岡村

◎赤城塗盆 年産額 三萬圓

従來前橋市を中心として製作され土産品として好評あり、大正十年以來傳習會を開催

し、近來各郡に普及し産額増加の傾向である。

生 産 者 前橋市本町

群馬郡國府村

鹽 川 徳 平
岡 田 勘 太 郎

群馬縣利根郡木炭同業組合

組 長 細 谷 淺 松

理 事 木 島 定 一 郎

電話 沼田一六六番
事務所 沼田町甲八三一

同 組合製炭研究所

沼田町柳町

擔任者同組合技手

木 島 定 一 郎

蒟蒻種薯と其精粉

自園栽培
蒟蒻種薯
精製蒟蒻粉



西毛蒟蒻農園

群馬縣北甘樂郡西牧村

振替口座東京二〇七四九番

自園産

純良蒟蒻粉

農家副業
之大王

○蒟蒻栽培ノ安全有利ナルハ定評アリ
耕作希望者ハ申込次第「蒟蒻栽培ノ菜」
進呈ス

○試作用種薯見本ハ送料共金二圓ニテ分譲
ス

○當園製造ニ係ル丸西印蒟蒻粉ハ絶対ニ場
違品ヲ混ゼズ各地市場ニテ好評ヲ博セリ
○取引御希望者ハ御申込次第見本送附ノ上
商談致スベク候

埼玉縣

◎鶏卵 年産額 二百四十四萬九千圓

縣下の養鶏の起源は詳ならざるも、昔報農用として飼養せるに始まり、爾來幾星霜を
閱し漸を遂ふて蕃殖し、明治十七八年頃から海外より優良鶏を輸入し、飼養するもの
現れた。主要米麥地たる本縣の農家は遺穀に依るのであるが、飼料を得るに易く尙卵
肉の需要増加と東京市販出の便とにより逐年發達し、今や飼養羽數百十二萬六千羽以
上に及び、農家の主要副業となつた。縣は此趨勢に鑑み大正十三年から特に鶏卵品評
會を開催し、卵質の改良を圖り、東京市場に於ける埼玉卵の聲價を益々高めんことに
努力して居るのである。

生産者 北足立郡大宮町

同 同 同 同
片柳村

小 山 嘉 藏
清 水 次 郎
島 田 末 吉
榎 本 中 三 郎
小 山 林 二

秩父郡秩父町

同

同

同

同

同

長者村

同

同

兒玉郡松久村

同

同

同

同

同

神保原村

同

魚惣養鶏場

かめ彌養鶏場

高橋清

宮野前圓造

真下皆五郎

半田準治

岡村謹一郎

倉澤善作

大木重三郎

大木臺三郎

神岡熊次郎

分須清

石井清治

竹内忠三郎

猿渡徳次郎

松本源藏

同

同

同

同

大里郡三尻村

同

同

佐谷田村

同

同

同

同

同

新會村

同

同

北埼玉郡大越村

同

同

同

根岸徳治

齋木房吉

齋木陳古

中村榮一

落合善二

吉原英作

藤井一郎

田中清一郎

久保勝一

加賀崎清作

正田吉雄

荒木喬

立岡勘左衛門

出井仙之助

竹内忠兵衛

齋藤一二

北埼玉郡三田ヶ谷村

青木庄市郎

同

恩田多吉

真田吉右衛門

◎蜂蜜及蜜蠟 年産額 七千餘圓
蜜源植物の豊富なる地方では、農家の副業として蜜蜂を飼養するもの多く、近時自家用として蜂蜜を利用する者漸次増加するの趨勢に至つた。

生産者 大里郡熊ヶ谷町

金子眞三

◎鯉 年産額 七萬七千圓

縣下に於ける養鯉は、古來から溜池空廢池等を利用して之を養成したのであるが、明治十九年頃に至つて水産獎勵會組織せられ、北埼玉郡三田ヶ谷村松本伴七郎なる者村田水産翁の助力を得、献身的に之が普及に努めた結果、年を遂ふて發達した、然るに明治四十三年大洪水に遭遇し莫大の被害を蒙つて漸次疲弊を來したので、縣は大正九年斯業獎勵方針を定め、講習講話會を各地に開催し、大正十二年度からは鯉苗の養成配付を行ひ、普及獎勵に努めし結果、次第に普及し、將來有望なる事業たらんとある趨勢にある、販路は東京及縣内を主として居る。

生産者 秩父郡秩父町

小野摠次郎

北葛飾郡豊岡村

大澤倉藏

◎梅干及梅粕漬 年産額 梅乾二十萬圓 梅粕漬 五千餘圓

梅は縣下の風土に適し、縣下到處所に栽培せらるれども、入間郡梅園村、南埼玉郡大袋、増林村附近一帯は梅の名産地で、年産額二十六萬六千餘圓に及び、生果の儘東京市場其他に販出せらるるものあれども、大部分は梅干に加工せられ、東京、北海道、東北地方等に販出せらる。而して梅園村に於ては梅粕漬の製造行はれ、製品は東京、横濱其他各地に販賣せられ可成りの好評を博して居る。

生産者 入間郡梅園村

新井茂作

南埼玉郡大袋村

瀬尾哲太郎

◎桐小箱 年産額 六十萬圓

縣下の桐箱製造の起源は、遠く後陽成帝の御宇慶長年間徳川家康江戸に幕府を開くや家具の工匠を武州川越に住ましめ將軍家の御用を仰付け、其後靈元帝の御代天和年間に至り、桐材を以て製作せしめたのに創まる。其後南埼玉郡粕壁地方北足立郡石戸村地方に傳はり、今日に於ては川越市、粕壁町を中心に南埼玉郡、北葛飾郡、北足立郡下に汎く行はれ、總産額三百七十六萬圓に及び、縣下重要物産たるばかりでなく、本邦に於て名聲噴々たるものである、桐箱には簞笥、長持、用笥、本箱類等、其の種

類甚だ多く、小箱類には硯箱、筆箱、軸箱、道具箱、茶器箱、徳利箱、呉服箱、商品切手箱、賞牌箱、化粧品箱等種々のものがある。川越市、岩槻町に於ける製造者は多く専業であるが、南埼玉、北葛飾郡下には副業的に農閑時を利用して之に従事してゐる者が多い。製品の販路は東京を主とし大阪、北海道、東北地方等である。

生産者 南埼玉郡大澤町 鈴木正康

◎文庫及花籠 年産額 一千圓

縣下北足立、入間、大里、兒玉、秩父の各郡に亘り、竹林の栽培盛なるを以て従つて之が製品の産出多く、年産額四十一萬圓に達し、農家副業として之を製作するもの多いのであるが、美術的製品の産出の尠ないのは遺憾であるといふので、縣は大正十年度から講習會を開催し、其の普及發達を圖り、文庫、花籠、衣裳入、色紙懸、炭取籠の製作を見るに至つた。製品は主に京濱其他に販出せられ、甚だ有望なものと見られて居る。

生産者 北足立郡戸塚村

同 同

田村 龜雄
前野 瀧藏
吉田 彦藏

同

横山 寅吉

◎釣竿 年産額 二萬圓

北足立郡青木村、内間木村に於て多く製産せられ、青木村の釣竿と稱し、東京市を始め本邦各地に販出せらるゝ外遠く諸外國にも輸出せられて居る。

生産者 北足立郡青木村

増田 甚五郎

◎竹配達籠 年産額 一千圓

安松筑(米上筑)の産地で有名な入間郡松井村附近には優良なる筑、籠の産出多く、東京其他隣府縣に販出せられ夙に名聲を博してゐる、配達籠は特に堅牢なるを以て需要益々増加せんとする傾向である。

生産者 入間郡松井村

越阪部 佐吉

◎團扇 年産額 一萬七千圓

入間郡越生町、川越市を主産地とし、就中濫團扇は越生町の特産とも稱すべきもので、四季を通じ婦女子の内職として製作せられ、耐久力に富み實用に適するので、需要は甚だ多い。販路は縣内、東京、群馬を主とし、其他近縣に販出せられて居る。

生産者 入間郡越生町

田島 信

◎水 囊 年産額 四萬圓

水囊製作の起源は、徳川三代將軍の當時竹澤郷と稱する頃住民深田李兵衛が偶然の思付で、木を曲げて輪となし、之に篠を剥ぎ編み附け籠とし、手厨用に使用したもので、輕便で實用的であるといふので、直ちに近隣の模倣する所となつた、偶々介する者あつて之を市場に出してみると廉價なものと實用的なもので顧客に非常の満足を與へ、爾來農閑期を利用し之が製造に従事するもの増加し、今や従業戸數八十餘戸に及び、比企郡竹澤村の特産物となつたものである。東京、千葉、茨城、群馬、栃木、長野、神奈川等の各府縣から關西東北に汎く販出せられて居る。

生産者 比企郡竹澤村

- 田端 義一
- 高荷 佐太郎
- 田端 長太郎
- 長谷部 勘三郎
- 武川 六重
- 柳 常造
- 神田 富次郎

- 同 清水 永吉
- 同 清水 荒造
- 同 石川 彦次郎
- 同 石川 源之丞
- 同 吉田 安次
- 同 長谷部 寅吉
- 同 高荷 淺次郎
- 同 長谷部 設太郎
- 同 吉田 十二
- 同 吉田市 三郎
- 同 成川 智
- 同 鈴木 秀次郎
- 同 梅澤 馬次郎

◎行李及バスケット 年産額 行李七萬九千圓 バスケット六萬六千圓

縣下の杞柳栽培は、明治三十七年に起つたものであるが、大正五六年頃迄は細工原料として専ら岐阜方面に送り縣内に於て利用するものはなかつたのである。川越市商業

會議所は杷柳加工をして家内工業たらしむる目的を以て杷柳細工の調査研究にかゝり、大正六年十月兵庫縣豊岡町方面に視察員を派遣し、調査を遂げ、同年十二月喜蔭社を設立し、但馬から教師を聘して之が講習をなし、縣に於ても大正八年北足立郡六辻村に第一回の講習會を開催し、以來引續き之を開催し、其普及獎勵に努めた結果、今日の盛況を呈するに至つたのである。製品は大部分京濱及横須賀方面に販出し、川越行李として名聲高く、注文殺到し益々有望なる事業たらんとして居る。

生産者 北足立郡浦和町

後藤 丈八

◎藁製品

年産額

飯櫃入一萬圓 草鞋三萬三千圓 草履十四萬一千圓
繩七十三萬四千圓 蔴十九萬九千圓 叭十萬二千圓

藁細工の起源は詳かならねど往古から行はれ、冬期農閑を利用し製造せられたのであるが、繩蔴の産額の著しく増加したのは明治維新後で、歐米文明の輸入に伴ひ商工業の發達之に要する原料並に其の製作品の輸送運搬繁多の度を加ふると共に、之等の荷造其他に必要缺ぐべからざるものとなり、其の需要の増加した結果今日の盛況を見るに至つた。而して藁細工は縣下の各地に亘り、汎く行はるれるけれども南埼玉郡及北葛飾郡を串流する中川沿岸地方には十五本繩と稱する各種荷造蠶の製造多く、千葉縣野田地方から全國に販賣せらるる醬油樽掛繩の如き、殆ど當地方から供給せられてゐる。菰類、蔴類、叭類、蠶網、草履、草鞋、正月飾等は各地に製産せられ、總年産額百四

十五萬二千圓に達し、縣下の主要副業の一つである。販路は東京を主として關東一圓、東北地方、北海道にも及んで居る。

生産者 大里郡吉見村

同

福田 寅藏
福田 延一

同

福田 俊太郎

北埼玉郡志多見村

松本 梅次郎

同

松本 喜十郎

同

田島 金次郎

同

松本 繁八

同

松本市 兵衛

同

田島 已之助

同

松本 仁兵衛

同

松本 士平

同

松本 松五郎

同

田島 平次郎

同

田島 孫次郎

北埼玉郡志多見村

山崎寅次郎

大里郡化谷田村

戸井田佐惣

同

内田半次郎

南埼玉郡増林村

島根庄太郎

同

會田瀧太郎

同

會田重藏

同

觀田伊助

北葛飾郡吉川町

中川編蒔吟同業組合

◎蘭製品 年産額 疊表四萬六千圓 花莖産六千圓 萬歲笠二千圓

縣下の蘭栽培及び蘭製品の起源は相當古い歴史を有し、入間、比企二郡の一部に栽培せられしも、生育悪しく僅に着莖産笠の如きものを製造せらるゝに過ぎなかつた、それが明治三十三年頃備後より蘭蒔を取り寄せ、之を入間郡南古谷村で栽培して相當良品を得、座布團等の極めて強靱なるものを得た、然るに當時製造の規模經營法等は小さかつた爲め、發達を見ず程なく頓挫して了つた。降つて大正十一年同村は再び蘭草の栽培を試むる者があつて、一町歩余を植付たのに草丈長く靱性に富んだものを得たので、先進地から技術者を聘し織出して見ると、頗る良質廉價なるものを得た。

以來製造盛に行なはれ販路隨所に開かれ、今や栽培面積百町歩餘に及び、前途有望なるものとなつたのである。

生産者 入間郡南古谷村

蘭草栽培加工組合

◎下駄表 年産額 七萬六千圓

この起源は分明しないけれども、本品は本邦特用の實用品であるのと、需要廣汎に亘る關係上年と共に發達した。販路は東京市が主である。

生産者 北足立郡春岡村

松本眞治

南埼玉郡慈恩寺村

小泉兵左衛門

◎眞田 年産額 經木眞田十萬圓 麥釋眞田一千圓

縣下の眞田は東部地方で生産せらるゝけれども、南埼玉郡粕壁町を取引市場として世に知られ、最近輸出不振の結果産額は減少を來してゐるが、近年眞田を以て帽子の製造を創始して非常の好評を博し、東京、千葉、茨城、群馬の諸府縣を始め各地に販出せられるやうになつた。

生産者 南埼玉郡粕壁町

島根惣助

◎屑繭製品 年産額 眞綿四萬五千圓 玉絲四十八萬圓

眞綿玉絲製造の起原は杳として知る事は出來ないのであるが、古來から行なはれたも

の、やうで、農家婦女子の副業として普く縣下に行なはれてゐる。真綿は東京其他に
販出せられ、玉絲は秩父其他の機業地にて殆ど消費せられてゐる。

生産者	入間郡入間川町	日高勝藏
	秩父郡樋口村	野原志津
同	同	瀧上ツネ
	兒玉郡本庄町	土屋政郎
	大里郡花岡村	江口義彦
	秩父郡皆野村	黒澤万藏
同	同	黒澤儀平
	同	齋藤吾作
同	小鹿野町	坂本近平
同	同	根岸酉藏
同	同	坂本近藏
同	同	坂本治三郎

◎生絹織物 年産額 七百五萬一千圓
生絹は縣下西北部入間、比企、大里及秩父の諸郡に亘り古來から生産せられ、其の起源

は崇神天皇の朝知々夫の國造知々夫彦命が人民に養蠶織物を勧め給ひ、横瀬村大字根
古屋に於て創めて之を製造したものである。爾來養蠶の發達に伴ひ、深谷、寄居及飯
能、越生等、秩父連山一帶の地方に傳播したものであるとも云ひ、或は靈龜二年の頃
高麗人本縣に歸化し、入間郡の一部舊高麗郡に住し、絹織物の製法を傳へたものであ
るとも云ひ、又應仁年間京都織工山名細川の兵亂を避け、入間郡越生町地方に至り製
織を始めたりとも云ひ、或は寛永二年秋元但馬守喬知甲斐國都留谷村域から月越に遷
されし時谷村から職工を聘し之を製織せしに始るとも云ひ、その起因マチ／＼である
が、由來生絹は農家の婦女子が自家收穫の屑繭を整理し之に加工を施し、原料を生糸
となし、農閑時の過剩勞力を利用して製織し、經濟の發達に資せし處の因襲的習慣を
享け、農家の副業として盛に製織せられ、養蠶の普及に伴ひ益々發達し今日に及んだ
ものである。近時織機により事業的に之が生産を企てるものも次第に増加した。生絹
の糸好絹を單に生絹とも稱して居る、而して入間郡越生町附近から産出さるゝものを
越生絹と云ひ、比企郡小川町附近から産出するものを小川絹と言つて居る。販路は甚
だ汎く東京、大阪、京都、群馬、朝鮮等が主である。

生産者	入間郡越生町	下田富二
同	毛呂村	田中伊之吉

◎所澤飛白 年産額 二百五十萬圓
所澤飛白の起源は文化年間であつて、初め村山郷附近で多く産せしかば、村山耕と稱せられ、明治維新以後其の販路擴大するに及び、所澤市場に於て賣買するに至り、所澤飛白と改稱するに至つた。大部分は專業的に製織せらるゝけれども副業的に之を製織するものもある。

- | | | |
|-----|---------|-------|
| 生産者 | 入間郡小手指村 | 小達増五郎 |
| 同 | 山口村 | 神山小賢司 |
| 同 | | 高橋藤吉 |
| 同 | | 粕谷新吉 |
| 同 | 吾妻村 | 内野留吉 |
| 同 | | 内野菊次郎 |
| 同 | 山口村 | 高杉小三郎 |
| 同 | | 中村善六 |
| 同 | | 野崎利八 |
| 同 | | 中村辰之助 |

◎紙 年産額 百三十三萬二千餘圓

縣下の製紙は、寛文の初年頃小川町附近の各村落で農家副業として製造せしに創まり、爾來社會の進歩に伴ひ其の需要益々増加すると共に次第に發達し、明治三十四年製紙同業組合を組織し、斯業の開發を圖り今日の盛況を呈するに至つた。其種類は極めて多けれども、細川紙、程村紙、美濃紙、障子紙、西の内、槻川紙、蠶卵臺紙、新聞臺紙等が其主要なるものである、何れも楮皮を主原料としてゐるから甚だ強靱で紙質も極めて優良である。販路は東京市を主として、群馬、京都、愛知、静岡、岐阜、熊本、島根、香川、愛媛、福島、岩手、宮城等の諸縣にも及んでゐる。

- | | | |
|-----|--------|--------------|
| 生産者 | 比企郡大河村 | 横川禎三 |
| 同 | 小川町 | 町田英次郎 |
| 同 | | 護守吉三 |
| 同 | | 埼玉小川製紙企業組合 |
| 同 | | 有限責任小川紙業信用販賣 |
| 同 | | 利用購買組合 |
| 同 | | 細川長八 |
| 同 | | 梅澤惣兵衛 |
| 同 | | 青木兵吉 |
| 同 | | 柳岸直吉 |

比企郡大河村

◎茶 年産額 百七十萬九千圓

縣下の茶業起源は、凡そ七百年前建久二年釋榮西宋から茶種を携へて歸朝し、之を筑前脊振山に植へ喫茶の功德を唱導したものである。其の徒高辨山城武藏其他詰所へ之を移植し、内最も茶樹に適應した箇所を定め、銘園五場となした。我が狹山は其の一で已に其頃から創まり後鎌倉時代を過ぎ足利時代を経て、織田、豊臣時代に至り茶道空前の發達をなし、縣下の茶業も漸次發展し、狹山茶は宇治栲尾茶と共に善く人口に膾炙するに至つた。徳川氏江戸幕府を開くや、狹山茶の需要は激増し、降つて明治維新に至り、海外通商開かるゝや、横濱から海外に輸出せられ、頗る好評を博した。明治二十年に茶業組合組織せられ、官民一致し銳意其の開發に努め、農家の主要副業となり、今日の盛況を呈し狹山茶の名聲は天下に噴々たるものとなつたのである。販路は東京、千葉、群馬、栃木、長野、神奈川、新潟、福島其他盛に海外にも輸出せられて居る。

生産者 入間郡鶴ヶ島村 新井 嘉七
同 富岡村 小澤 徳吉
同 大野 良平

同 粕谷 金三
同 堀兼村 平沼 敬亮
同 平沼 正三
同 荒幡 信吉
同 金子村 市村 高彦
同 豊岡町 繁田 庸三郎
同 大井村 雪平 幸次郎
同 三芳村 田畑 久治
同 霞ヶ關村 發智 庄平

◎弓獅子

雛人形の名産地は北足立郡鴻巣町にて製作せられ、東京を始め各地に販出せられる。

生産者 北足立郡鴻巣町 秋元 新太郎
同 松村 夏五郎
同 酒卷 源藏
同 島田 忠三郎

◎蜀黍帚 年産額 十萬圓

蜀黍等の製作の起源は今から凡そ百年前で、當時朝鮮等と稱し農閑の期に之を製造し江戸に鬻ぎ、又は近在に行商せるに創り、爾來年々需要増加するに伴ひ益々發達し、大井等として夙に名聲を博して居る。入間郡大井村附近の特産で、京濱、京阪地方を始め、遠く朝鮮、臺灣にも汎く販出せられて居る。

生産者	入間郡大井村	玉井弘
同	同	小室隆吉
同	水谷村	高橋春吉
同	福岡村	小室半藏

◎竹皮草履 年産額 五萬四千圓

縣下は原料豊富であつて、農閑の利用と老幼婦女子の片手間を以て製作せらるゝから、藁細工と共に各地に製産せられ、縣内並に隣府縣に多く販出して居る。

生産者	大里郡久下村	鈴木重次郎
-----	--------	-------

◎山葵漬 年産額 一萬二千圓

近年山葵栽培の普及に伴ひ、産出せらるゝに至つたもので、産額は未だ微々たるものであるが將來は有望である、縣内及東京に販路を有して居る。

生産者	秩父郡秩父町	山下彦吉
-----	--------	------

◎其他

縣下に於ける農家副業として等閑に附すべからざるものあり、其の主要なるものは左記の如きものである。

◎豚	肉	年産額六十七萬三千圓	◎鷺	年産額五萬八千圓	
◎家	兔	同 四萬六千圓	◎鷺	卵	同 三萬一千圓
◎鱈	同	同 五萬七千圓	◎乾	柿	同 七萬九千圓
◎柿	澁	同 五萬圓	◎果	實	同 六十四萬圓
◎軟化蔬菜	同	同 二十五萬圓	◎花	百合	同 三十九萬四千圓
◎蒟蒻	芋	同 十萬二千圓	◎果	樹苗	同 六十七萬七千圓
◎桑	苗	同 四十三萬圓	◎山林用苗木	同	同 十五萬一千圓
◎杞	柳	同 九萬二千圓	◎藍	玉	同 七萬七千圓
◎木	炭	同 二百二十七萬七千圓	◎傘	同	同 十五萬五千圓

營業品目

一般荷造包裝用繩蔴叭類
 酒樽掛、醬油樽掛、味噌樽掛、
 酢樽掛繩、肥料用叭、雜穀用叭、
 各種

埼玉縣北葛飾郡吉川町

山城屋本店



繩蔴叭問屋 川口市郎右衛門

繩蔴叭部 電話 吉川五番
 同 吉川十六番

東京市本所區綠町
 三丁目二番地

川口東京出張店
 電話 墨田一、二七九番

東武線越ヶ谷驛前

川口越ヶ谷出張店
 電話 越ヶ谷五十番呼出

千葉縣

◎生乳及乳製品 年産額 四百萬圓

舊幕時代房州嶺岡に牧場を拓かれしめ人の知る處、今日迄洋種特にホルスタインフリ
 ーシヤン種により改良せられ、生乳並乳製品の需要増加し、製造工場の多數設置せら
 れるに至り、頓に普及し今は農家にして牛を飼はざるものなき状態となり、土産乳は總
 南煉乳會社、東京菓子及極東煉乳兩會社工場に於てバター又は煉乳に加工され又は生
 乳の儘所謂市乳として東京に移出されつゝあるのである、特に最近は東洋一と稱せら
 るゝ種牛を輸入して能率の増進を圖り一面生乳並乳製品品質の改良上完備せる生乳共
 同處理場を各町村に設置する等専ら縣下の生乳並乳製品の聲價向上に努め居てる。

生産者

東京菓子株式會社
 極東煉乳株式會社
 房南煉乳株式會社

◎豚 飼育頭數約五萬

縣下の養豚業は飼料、販路等の關係上、曩に普及發達し其の種類に於て又肉質に於て
 一頭地を抜き居るは人の知る處なるも、縣は更に巨費を投じて種豚を輸入し、或は縣

内に多数の種豚場を經營せしむる等更に一般の改良に努めつゝある、産地と全縣に亘り仕向先は東京、横濱方面及縣内駐屯軍隊である。

生産者

- 千葉縣豚家禽協會
- 高橋房吉
- 矢作養豚組合
- 千葉市養豚組合
- 畑養豚組合
- 養豚組合
- 養豚組合
- 同 檢見川町
- 同 幕張町
- 同 譽田村
- 同 都村
- 千葉郡檢見川町畑

◎鶏 卵 年産額 七百萬圓

豚と同様古くから普及し、明治二十年頃特に其の改良盛に行はれ、縣並堀田家農事試験場等の指導獎勵があつて、漸次隆盛になり今日に至つたもので、現在では養鶏戸數は農家戸數以上に達し、生産卵は卵質の優良と新鮮なることによつて歡迎せられつゝあるも、縣は尙一層地玉の聲價を擧るべく各種指導獎勵に努め、民間又之れに應じ共同販賣、共同検査等をなすに至つた。

生産者 香取郡

家禽販賣購買組合

◎特殊竹

縣下の氣候上質關係上、竹の種類頗る豊富にして、苦竹、淡竹、孟竹等は勿論寒竹、雲紋竹の如き、又棕栢竹の如き、特殊のものが多く、而して寒竹、雲紋竹、棕栢竹等は從來觀賞用に止まりしものなるも、加工技術の進歩と、製品の需要増加とにより、之れかが栽培をなすもの漸次増加するに至り、將來は廢地又は宅地利用的副業として益々普及せむとするの狀勢である。

生産者 印旛郡船穂村

香取 順

◎叭及蕙 年産額 叭百三十萬圓 蕙五十萬圓

長生郡廳南地方を中心とし同郡及市原、夷隅各郡を主産地とする。往古は農家自家用として生産するに止まりしが、天保安政年間數度の大震災並大洪水に遭ひ、蕙を張りて雨露を凌ぎ土砂を入れて土俵を作るため其の需要大に起り、明治維新後は群馬、埼玉其他府縣に蠶具として移出し、次で紡績並肥料製造業の發達に伴ひ、包装材料として需要益々増加し、更に日清、日露兩役中軍需品に用ひられ、戦後亦産業の發展に伴ひ、斯業の發展は愈々目醒しくなつた。而して生産の大部分を占むる肥料叭の發展と人造肥料會社設立當時に於ける地元商人並有力者及肥料會社等の勢からざる努力に負ふ所が大であつた。現在は東京方面を第一とし、亦各方面にも移出せられ、最近は縣

下主産地を一圖とし、以の販賣を目的とする販賣組合の設立を見むとするに至つた。

生産者 長生郡豊榮村 千田協行組合

同 廳南町 吠菴商組合

夷隅郡國吉町萬木 尾形三億

◎神奈川産 年産額 二十五萬圓

本縣は古來乾鰯、粕類の生産多く、之れが包装用産の使用亦寡く無つた。故ある哉附近農家は從來副業として之が製造を營みつゝありしものが、工業の發展と交通運輸の開發と共に販路著しく擴まり、主産地海上郡の如き殆ど各農家に於て製造せらるゝに至り、仕向地は東京、横濱を初め遠く東北、北海道方面に及ぶのである。

生産者 海上郡飯岡町 飯岡信用購買販賣利用組合

◎繩 年産額 九十萬圓

縣下各地方に生産せられ縣内消費を主とするも、近時需要の増加と斯業の獎勵の結果、各方面に新しき産地が出来他府縣に移出せらるゝもの多きを加ふるに至つた。就中銚子方面に於ける荷造太繩(年産額二十二萬圓)の如き組合組織により、一面消費者たる醬油會社と特約製造をする等の方法によつて著しく發展するに至り、主なる仕向地は

縣内の外京濱地方とする。

生産者 山武郡成東町 成東町農會

海上郡西銚子町 長塚製繩組合

東葛飾郡梅里村今上 岡田熊太郎

同 郡手賀村 薑採種組合

◎疊 表 年産額 二十萬圓

安房郡を主として印旛郡之れに次ぎ、安房郡に於ては享保元年頃同郡千歲村安馬谷鈴木某西國巡視の際颶風に遇ひ一孤島に漂着した。此の島に栽培してあつた苗を持ち歸つて漂着せる孤島の名を附して琉球と稱へ栽培を始めた。但し繁茂はするも製織方法を知らぬ爲に利用が出来ない、其の後嘉永年間他より移入せる製品を見て製織法を工夫し敷物として出来上つたものは不幸にも當時殆ど世間から認められなかつた。明治初年に至つて漸く需要を増し従つて収益も多くなつた爲め約二十戸の従業者を見た、越へて二十六年頃特に著しく普及して終に安馬谷表として一般市場に知らるゝに至つた。今は東京其の他の方面に移出せらるゝ、又印旛郡に於ける疊表は今より十數年前白井某が靜岡縣から移住後始めたもので種々なる苦心の結果今日に至つた。只今では組合組織の下に盛に生産せらるゝ様になつた。尙最近は縣の獎勵により其の他の各地に

生産されて居る。

生産者 安房郡千歳村安馬谷

印旛郡八街町

座間 助次郎

七島蘭草栽培加工出荷組合

◎罐 苞 年産額 五萬圓

明治四十年頃安房郡千念の者横濱へ商用のため出向きたる際、麥酒罐苞装用として罐苞製造の副業として有利であることを知り、歸來附近の者に奨励したのが創始であつた、其の後縣郡の奨励により千葉、東葛飾、印旛各郡に生産せらるゝに至つたものである。

生産者 安房郡千倉町

千葉郡椎名村

石井 太平

永瀧 直四郎

◎蜀黍筭及其原料 年産額 七萬圓

明治の初年より縣下各地に廣大なる開墾地拓かれ、各地方よりの移住者多く、之等は何れも出身地方より各種の作物を持ち來つて試作したもので、之れが爲め其の地方に於ける作物の種類は極めて多種多様であつた。等蜀黍も亦其の一であつて、筭の産地埼玉又は栃木方面から傳はりしものである。尙印旛市原等の開墾地は各種の方面より見て之れが栽培に好適なるため今は二百餘町歩の作付を有し、原料の一大供給地たるに至つた。

而して之れが加工は從來極めて少かりしも縣郡等の奨励の結果、縣下各地に擴まり近き將來に於ては相當の生産を見むとするの状況である。

生産者 印旛郡遠山村

君津郡平岡村

等出 荷組合

鈴木 民治郎

◎チーゼル 年産額 五千圓

安房郡を主産地とする。同郡國府村の庄司氏初めて之れが種子を得試作したるに始まる。同地を以て本邦チーゼル栽培の元祖とも稱せらる、近時各地方に生産せらるゝに至るも沿革の古さと品質の優良なるを以て特に一般に知らる。主なる仕向先は東京、大阪、名古屋等にしてラシヤメリヤス類の起毛用として用ひらる。

生産者 安房郡國府村

庄司 倉次

◎籐表並籐製品 年産額 七十萬圓

明治三十七年頃初めて銚子地方に於て籐表の製造をなす、當時は生産並取引の中心が東京市にして本縣産は茨城縣の品と同様場異ひ品として取扱はれ、當業者の不利尠からざりしが逐年盛況に趣き、奨励の結果は、附近町村は勿論安房郡方面に及び、今や籐表の本場にして且取引の中心地となり、製品も籐表の外乳母車、椅子類を初めバスケット、網代敷物より土瓶敷、籐繩に至る迄各種の製品を産す、亦最近茨城其の他の

地方に聘せられて籐表の製法を傳習するもの多き結果、其の原料品の移出も多きを加ふるに至つた。製品の仕向は關西方面を初めとし全國各地に及んで居る。

生産者 海上郡銚子町

安藤清三郎

同

幸保安次郎

同

松崎孝太郎

同

梶木彌五郎

同

人見巳之助

同

根本定吉

同

田原一之

同

小山徳藏

同 飯岡町

飯岡藤表組合

◎團扇骨及團扇 年産額 二十万圓

封建時代川越藩松平氏、大分藩松平氏兩藩の小祿者の副業として製出せられし頃より原料篠竹を切竹として安房郡より供給せるが、其の數多からず、然るに維新の際會津藩士中之れを習ふもの多きを加へ稍々隆昌の端を展き、而して明治初年には團扇製造者は何れも士族にして所謂殿様職工たりし故、其の權幕實に當るべからず、工賃仕拂

の如き恰も御用金命令の如くにして主従の關係全く他業と異り、新參者の開業は殆ど不可能なるが故に、自然從來の營業地たる堀江町の獨專に屬したものである。然るに人文進み時代變遷は團扇も輸出品中の一たるに至り、需要多きに加ふるに至つた。明治十七年初めて安房郡船形町川名に一職工に聘し、竹割手工を附近の子女に傳習せしめ、四隣町村に普及せしも當時市場に認められず、幾多の困難を経て漸次房州割竹として知らるゝに至り、東京より轉住する職工亦多く、事業は歳と共に發展し、明治四十年頃既に一千万本を生産す、然れども製品の多くは割竹又は窓竹の如き加工の程度低き半製品にして遺憾の點多かりしが、這般の震災直後縣の主催による團扇仕上法傳習會開催以來盛に團扇として移出せられ、生産額の如き一躍して倍加した。而して産地に於ては六七歳の子女より餘生を送る老媪に至るまで各分業の方法にて就業せらるゝ爲農閑を利用して貯蓄の財源を得、商業の閑子弟勤勉の奨勵となり、漁家は不漁時之れによりて食し、或は納税の資を作る等經濟的に、果又精神的に偉大なる効果を收めて居る。

生産者 安房郡船形町

横山良八

◎妻揚子 年産額 八萬圓

君津郡久留里町に於て廢藩後士族の手内職として起りしものにして、同地方に優良な

る原料の生産せらるゝと其の製品が各種斬新なる工夫をこらしたることにより、上總揚子として一般に知らるゝに至り、産地又附近町村に及ぶ、仕向地は東京方面を主とする。尙原料立木の伐採蒐集を副業とする農家も亦多くなつた。

生産者 君津郡久留里町

久留里町農會

同

藤代申太郎

同 小櫃村

森 啓 藏

◎衣紋竹傘柄類其他竹材加工品 年産額 八万圓

竹材として價値少き煤竹篠竹等は生産多く、古へより建築用其他簡單なる加工をなし、京濱方面に移出したものであるが、加工技術の進歩と需要の増加並奨励の結果衣紋竹、帽子掛、傘柄、箒柄、輸出向洋傘柄を初め箒軸類、釣竿、晒竹、窓竹其他の加工品の生産著しく増加するに至る。其の仕向地は京濱方面を初め各府縣並海外である。

生産者 市原郡平三村平藏

朝生安太郎

長生郡廳南町

野口善次郎

夷隅郡大多喜町

鈴木長作

◎煮干箱 年産額 三萬圓

安房郡天津町附近を主産地とす、從來煮乾鯧製造には竹籠を用ひたるも、約十年前鴨

川町の某氏初めて竹を網代に組み、之れに木箱を付したるものを工夫してより、附近は勿論遠く静岡、關西方面並に東北地方よりの需要尠からず、生産益々増加し加ふるに最近天津町に白井式網代編機の發明あり、生産費亦著しく低減し得るに至らむとする模様である。

生産者 安房郡天津町

白井覺兵衛

◎箕 年産額 十萬圓

主産地は匝瑳郡豊榮村にして、三百年前既に農家の副業として箕の製造をなすとの記録がある。久しく當業者は之れを他に擴めざること努めたる結果一般に普及するに極めて久しかりしが、今は附近は勿論安房郡の一部にも生産するに至る。而して箕に穀用と製茶用とあるも何れも技術優秀なると、他に大産地少き爲め殆ど全国的に販路を有するは注目すべき點である。

生産者 匝瑳郡豊榮村

豊榮信用購買販賣組合

◎木釘 年産額 五萬圓

明治初年東葛飾郡千代田村の開拓地に移住せる舊佐賀藩士の副業として行はれしものが漸次附近に普及せるものと云はる、而して明治四十年頃には需要の増加と共に、著しく發展し、更に最近に於ては、原料産地たる龜山村に於ても、生産せらるゝに至つ

た、仕向は東京を主とするも品質優良なれば頗る歓迎せられ、殆ど市場独占の感がある。

生産者 東葛飾郡千代田村

中山 諒太郎

同 八木村

戸邊 さだ

君津郡龜山村

龜山村 農會

◎ 箆籠類 年産額 三十萬圓

二三百年の沿革を有する印旛郡川上村附近産篠竹利用の鹽古箆は價格の廉使用の輕便なるによつて知らる。又京濱地方に需要せらるゝ龜甲箆は文政初年安房郡大山村平塚安田伊右衛門が箆の形を變じ荒箆を製造したるに創まり、安政年間坂東詣りとして來たりたる廣島縣生れの吉兵衛上總方面及横濱に販路を開き、慶應年間には荒箆より全く龜甲箆を作り、終に京濱地方に歓迎せらるゝに至りしものにして、其の技術亦熟達した。上總箆殊に米揚箆に用ひられ長生郡を主産地とし、古來技術優良として知らる、其の他青物市場にて使用せらるゝ野菜籠、小島籠、釘箆、漁業用籠類等の實用品の生産も尠くない。尙竹行李の如きも原料豊富にして、生産尠からざる現況である。

生産者 長生郡東村

東村 農會

印旛郡川上村

鹽古箆製造組合

(竹行李) 同 和田村

櫻井 仙太郎

◎ 花籠類 年産額 三萬圓

花籠類其の他美術的竹細工品の製造は、少數の者により輸出向として古く行はれしが、輸出の外、内地の需要増加せると一面關東地方に所謂籠物の産地なきと鑑み、縣に於て之れが奨勵を加へたる結果、各地に之が製法盛に行はれ尙日淺きも相當の生産を見るに至つた。

生産者 市原郡明治村

竹工組合

安房郡岩井村

竹細工組合

君津郡大貫町

藤崎 善治

◎ 筥 年産額 十萬圓

東葛飾、千葉兩郡を産地とす、筥は文政年間東葛飾郡風早村五條小林五右衛門が山林内に自生せる笹目を畑地に栽培し、之れを原料として製作を試みたりと云ふ。是れ本縣筥の元祖と傳へらる。爾來多少の生産ありしが、安政年間江戸表大地震の際工事用として大需要ありしたため、四隣に傳播され、更に明治三年には江戸川堤防決潰の際需要あり、爾後の船舶苗圃小屋其他の雨覆として盛に使用せらるゝに至り、各地に於て盛に生産するに至つた。

生産者

東葛飾郡風早村大井

石戸 豊次

同 土村増尾

關口 淺吉

千葉郡犢橋村

町野 久衛

◎簀 年産額 十萬圓

東葛飾郡、印旛郡を主産地とす、明治六年頃東葛飾郡千代田村に移住せる埼玉縣二合半領の者が茅を利用して作りたるを最初とするが如く、本品は藁製に比し、軽く且丈夫にして、防雨の効果又大なるを以て一般に歓迎せられ、産地亦各方面に擴まり、販路として近府縣は勿論東海道方面に及び、原料の如き特に畑地に栽培するに至つた。

生産者

印旛郡永治村

山崎 彌市

東葛飾郡千代田村豊四季

武井 仁助

◎草履類 年産額 十五萬圓

藁草履は殆ど各地に生産せらるゝも、東葛飾及印旛郡に多く、竹皮草履の産地は印旛、千葉、東葛飾、山武各郡に散在し、棕櫚、葉草履は東葛飾郡を主産地とす、其の他未だ産額多きに達せず。亦蒲を利用せる蒲草履(山武郡片貝村方面)玉蜀黍の果皮を利用せる等特殊のものもある。

生産者

東葛飾郡七福村

西野 右平

同 同

中村 福次郎
西野 傳吉

◎笠 類 年産額 五萬圓

藁編笠、菅笠及特に漁業者に用ひらるゝ竹皮笠を主とする。藁編笠は今より約二百年前岡山縣出身の一尼が匝瑳郡八日市場町に庵居し、常に編笠を作り、行人の求めに應じ、糊口の資に充て居りしが、附近の婦女子中其の技術を學ぶものありて爾來副業として今日に相傳へたりと云ふ。而して明治三十年頃俗稱伴右衛門笠を製作されるに及びて販路著しく開け、縣内は勿論東京、茨城其の他の府縣に移出せらるゝに至り、産地も印旛、香取方面に普及された。菅笠は長生郡を主産地とす、沿革古く製作の技術優れ型の如き各種の珍しきものあるを以て知らる。竹皮笠は君津、安房方面に産せられ、廣く漁業者間に需要せられ前者と共に販路も廣くなつた。

生産者

匝瑳郡八日市町

八日市場町農會

長生郡鶴枝村

片岡 徳一

◎蠶 網 年産額 六萬圓

生産地は匝瑳郡とす、製品に茅を原料とするものと、又藁草に似た野生の草を利用するものもある。明治十五年頃の創始で最初は後者を原料とし附近の需要に供せしが、

明治三十二年頃徳島縣蠶具商樋口某より茅網の優良なるを説示せられてより、製作に従事せるも需要者少く販路に窮するに至りしが、明治三十九年山梨縣主催聯合共進會に出品し、初めて各方面養蠶家の注意を惹き、遂に今日の如く全国的に販路を有するに至り、更に最近に於ては縣下に其の原料豊富なるに鑑み、一段の改良を加へたる茅繩編の製作を奨励せる結果、各方面に産地を見るに至らむとする状態である。而して本品の特徴は藁繩製に比し、軽く且保存に耐ゆると共に濕氣を防ぐ上に於て蠶兒衛生上の効果大なりと云ふ點にある。

出 産 者 匝瑳郡八日場市町

同 椿海村

八日市場町農會
安 藤 麻 次 郎

◎網地及撚絲 年産額 五十萬圓

古來房州及九十九里ヶ濱海岸に於て婦女の副業として、手編による生産頗る多かりしも明治四十年三重縣の製網織の發明を好期とし、直ちに之れを購入使用を奨励せしものが効果ありて海上郡飯岡町を中心とし、附近町村に普及し、今日の盛況を呈し、販路は縣内を初め東京、金澤、北海道其他方面に及び、更に製網業の發達に伴ひ撚絲製も従つて愈々盛大となつた。

生 産 者 海上郡飯岡町

寺 島 勘 兵 衛

同 同

水野 金 太郎
鎌田 七右衛門

◎上總木綿 年産額 六萬圓

山武、長生兩郡は以前綿の産地にして、文政年間茂原町在住の商人が附近産出の綿布を買取り販賣せるに、地質堅牢にして一般の歡迎を受くる所となり、所謂上總木綿の名を附し移出するに至つた。更に安政年間織機に改良を加へし結果漸く發展の緒を得しが。然るに世の推移と共に一時地織の如き粗品を嫌ふ傾向を生じ、衰退せしも明治四十年來製品の改良、經營法の改善に努め大いに其の面目を改むるに至つた。主なる仕向地は京濱、關東北方面である。

生 産 者 山武郡

上總木綿同業組合

◎手 袋 年産額 八萬圓

近來の發達に係り、大正元年頃より漸く各地に搬出せらるゝに至り、主として漁家婦女子の副業として、海上郡飯岡町を中心として附近に普及した。仕向地は東京、大阪方面が主である。

生 産 者 海上郡飯岡町

同

軍 手 同業組合
宮内 六左衛門

鈴木源司

同

◎帶止及羽織紐 年産額 三萬圓

東葛飾郡松戸附近を中心とし、一般家庭副業として行はれること久し。製品の仕向地は殆ど東京市である。

生産者 東飾郡松戸町

町山倉之助

◎傘 年産額 六萬圓

以前は相當に知られたる産地多かりしも、其の多くは番傘類を主とするを以て他の府縣の品に殆ど全く壓倒せられたるも、獨り佐原町に於けるものは技術並創意工風優秀爲に最上等品として市場に歓迎せらる。最近は外國向陽傘類の需要多く、事業は益々發展しつつある情態である。主なる仕向地は東京外米國等である。

生産者 香取郡佐原町

石井石松

◎綠茶 年産額 五十八萬圓

印旛郡を初め各郡に生産せらる、明治維新前後佐倉を初め各藩主の獎勵あり、外國輸出の増加と共に大栽培を試みるものがあり、尙當時他に類例なき盛況を呈せるも、明治の後半以來一般茶業の不振と共に著しく衰退せるも、最近縣の指導獎勵宜しきを得て著しく改善せられ、再び發展の曙光を見るに至つた。主なる仕向地は縣内及近縣に

して静岡其の他にも多少の移出して居る。

生産者

山武郡東金町

槌屋彦太郎

印旛郡臼井町

兼坂市兵衛

同 大森町

椎名鎌太郎

同 内郷村

土浮製茶組合

山武郡東金町

西川泰吉

市原郡姉ヶ崎町

深城製茶組合

千葉郡譽田村

村田濱藏

同 白井村

森谷満

東葛飾郡福田村

金剛寺源右衛門

同 八木村

岡田松次郎

同 鎌足村

安西武雄

◎甘藷澱粉 年産額 百八十萬圓

今を去る六七十年前、千葉市の人花澤氏の初めて甘藷より澱粉の製造を工夫し、其後新田氏の澱粉製造機の發明によつて發展の緒を得たるも、其後經濟界の變動、外國品

どの競争等により幾多の苦心を重ねしも周到なる經營の結果、漸く今日の如き地位を占むるに至つた。産地は千葉市、千葉郡、海上郡を主とし製品は製飴用を第一とし、各種のものに需要せらるゝに至つた。

生産者 千葉郡蘇我町

香取郡豊里村

同 東城村

千葉郡蘇我町

千葉市五田保

千葉郡蘇我町

千葉郡甘藷馬鈴薯製粉改良同業組合

向後 儀右衛門

鈴木 藤平

安倉 辰五郎

林 長八

小泉 傳三郎

◎甘藷切干 年産額 五萬圓

香取、海上、千葉各郡を産地とす、何れも甘藷の大産地である。香取郡に於ては大正元年頃より専心之れが製造を試みるものあり、産地殆ど極限され居たるも、大正八年以降奨励の結果、各地方に普及し組合を組織し、生産するもの日々に多きを加へ他府縣外に移出せらるゝに至つた。

生産者 千葉郡更科村

同 千城村坊谷

仲田乾燥甘藷製造組合

代表者 篠崎 彌惣次

信用販賣組合 代表者 小林 謙治郎

香取郡笹川町

◎大根切干 年産額 二十萬圓

安政年間東葛飾郡塚田村に於て初めて製造せられし當時は未だ販賣するほどに工風されなかつた。偶々凶作に遭ひ意外の収益を挙げたるものありて一般の注意を惹くに始まると云ふ。明治年間歳と共に需要増加せしも當時東京の間屋以外の販路だけを有し利益も少なかりしが漸く各方面に知らるゝに至つて、一段の發達を遂げ、千葉及印旛の兩郡にも生産せらるゝに至り、移出先は關東、北海道、關西並海外である。

生産者 東葛飾郡鎌ヶ谷村

同 法典村

千葉郡豊富村

國 松 豊 吉

伊 藤 音 次 郎

高 橋 忠 次 郎

◎あられ 年産額 二十萬圓

大正十一年末米價下落の際餅米の名産地東葛飾郡馬橋村鈴木仙太郎主唱の下に之れを餅として販賣し成功せるが、更に一層の加工に工夫をなしあられを製造し六輪あられと名付け、共同加工場を設け製造せられ、今日は個人經營の同業簇出するに至つた。

生産者 東葛飾郡馬橋村

◎薤及生姜漬 年産額 十萬圓

六輪餅販賣組合

東葛飾郡を主産地とす、從來同地方は是等原料品の主産地にして、生の儘市場に搬出するを常習とした。但し販賣上加工の必要を痛感すること多きため自然各方面に普及し今日に至る。されど尙原料生産高に比し加工歩合極めて少く、將來是等加工品は一層の生産を増加せむとする状態である。仕向地は東京を初め大阪、神奈川、北海道方面である。

生産者 東葛飾郡千代田村豊四季 成島子之吉
同 川間村 柳常八
同 野田町野田 戸邊信太郎

◎澤庵漬 年産額 五萬圓

澤庵漬は從來自家用を主とせしが、漸次販賣用として京濱地方に輸出するに至りしと共に、大根栽培の普及改良により優良品の生産増加し、農家が共同して加工場を設置し製造販賣するに至り、かゝる副業的生産益々多きを加ふるに至つた。仕向地は軍隊、京濱方面等が主である。

生産者 千葉郡犢橋村

小深信用販賣購買組合

◎トマトソース類 年産額 一萬圓

比較的古くより行はれしも、今日の如く市場に於て歓迎せらるゝに至りしは最近であ

る。需要多く爲に漸次普及し、今日にありては原料生産が共同設備をなし、生産するもの多きに至る。仕向地は京濱地方を主とする。

生産者 東葛飾郡八榮村 木島勝造
同 田中村 隅本商會
同 印旛郡布鎌村 増田綱治
芳澤英之助

◎苧麻子及苧麻子油 年産額 八萬圓

匝瑳郡を生産地とするも、近時は他郡にも優品を産す、苧麻子は四五十年前已に栽培せられしが、之れより餘程の歳を経、匝瑳郡野田村熱田氏初めて採種をなし、終に薬用品の精製に成功するに至り、始めて販路擴げ稍盛大に趣き、其後軍需品又工業用原料其他各種の用途擴張され、斯業は益々發展するに至つた。

生産者 山武郡東金町 鈴木太兵衛

◎午莠及葱種子

午莠種子主産地は印旛郡八街町附近は所謂瀧野川午莠の本場として、又葱種子の産地東葛飾郡松戸町附近は所謂矢切葱の産地として、何れも盛に栽培せらるゝも、以前は皆他の地方より購入せるものにして、其の額頗る大なりしのみならず、完全なるもの

を得ること極めて困難なりしも、縣郡の採種の奨励は當業者亦熱心に其の指導を受けし結果、理想的のものを得るに至り、自家用のみならず廣く他の求めに應ずることゝなつた、今は採種組合を組織して優良品の生産に努め聲價を益々昂上するに至つた。

生 産 者 印旛郡八街町 東葛飾郡松戸町

蔬 菜 採 種 組 合 矢切葱採種組合

◎水仙其の他切花類 年産額 十五萬圓

水仙は安房郡保田町を産地とす、往時元名水仙と稱し、殆ど野生のものを切り取り年末より正月に掛け江戸表各屋敷町家に賣り込むため移出したと云ふ。近時は産地も他町に及び各種類ものを栽培するに至る。更に水仙の外天然の氣候を利用し、菜種は豌豆花、梅花、桃其の他の早咲物も相當移出せられしも、最近は切花類の需要増加と嗜好の向上に伴ひ前記以外の金仙花、チューリップ、アネモネ、フリーシャ其の他各種の西洋花の生産著しく増加し、進ては温室温床等を利用し促成栽培をなすものさへ生ずるに至つた。

生 産 者 安房郡富浦村 同 郡保田町

房南花卉組合 保田町農會

◎蒟蒻薯 月産額 十萬圓

生産地はもと東葛飾、印旛、千葉各郡なるも、今は殆ど各郡に栽培せらる。縣下は蒟蒻の栽培に適し、元祿年間既に平野必大の著作中蒟蒻の項に江都に於ては總州鍋山の産を以て佳となすとの記載さへあり、當時より盛に栽培せられしも其の後種々なる原因があつたため著しく衰退した。されど最近に至つて著しく栽培面積増加し再び勃興せむとする状態である。

生 産 者 匝瑳郡豊榮村 東葛飾郡二宮村 同 塚田村

兩總蒟蒻栽培普及會 高 橋 多 吉 高 橋 彦 太 郎

◎促成蔬菜 年産額 三十萬圓

明治二十八年頃萬里小路伯の主唱により安房國農會に於て福羽逸人氏を招し、同地方に促成栽培講習會を開きたる後試みたるに始まると云ふ。爾來失敗に歸するもの多く殆ど中絶せむとするに至りしも、當業者の努力と、縣其の他の指導奨励よろこびにより漸次發展し、同郡内は勿論各方面に普及するに至れり、栽培作物は胡瓜、茄子、南瓜、西瓜、メロン、菜豆を始め各種に亘り生産品は主として大阪方面及京濱地方に移出せらる。

生 産 者 安房郡平群村

安房園藝生産物販賣組合

同 神戸村

寺田 龜太郎

◎葱 年産額 九十萬圓

東葛飾、君津、匝瑳各郡を主産地とす、葱の栽培は相當古くより行はれしも、現在の根深葱は明治二十年頃松戸町の人澁谷仁助氏が東京砂村より種子を持歸り栽培せるに始まり、明治三十年頃始めて東京市場に移出せられてより漸次隆盛となり、一面縣郡の指導奨励と共に品質の改良生産の増加を來たすに至つた。

生産者 東葛飾郡新川村

酒卷 仲三郎

同 松戸町

矢切葱採種組合

◎甘藷 年産額 七百五十萬圓

青木昆陽が今の千葉郡幕張町に試作地を設けし始まり、食用と澱粉原料用との二種あり、前者の千葉赤種は優良品として一般に知らる、仕向地は東京、東北、北海道である。

生産者 千葉市穴川區

穴川甘藷共同販賣組合

同

清宮 喜一

同

石橋 徳一

千葉郡檢見川町

穴倉 良

同 幕張町

湯淺 幹

◎里芋 年産額 百五十萬圓

印旛、千葉、市原其他各郡に生産され、殊に開墾地方に栽培せらるゝに至り、生産俄に増加し東京方面の外關西各地に移出せらる。

生産者 印旛郡八街町

森澄 庄八

千葉郡更科村

中島 久吉

同 都賀村

中島 己之助

◎午 蒨 年産額 六十萬圓

古くより栽培せられしが、今は所謂瀧野川午蒨の本場として知られ、關西方面に移出せらる。主産地は印旛、千葉、夷隅各郡である。

生産者 夷隅郡總野村

南總農産出荷組合

千葉郡睦村

吉橋蔬菜出荷組合

同

萩原 弘史

同 大和田町

花澤 太惣治

◎蔬菜類

東京市の膨脹に伴ひ蔬菜の需要激増し、加ふるに嗜好向上せる結果、縣下蔬菜栽培事

業は長足の進歩を來たし、加ふるに縣の指導獎勵により年産額胡蘿蔔三十五萬圓、連根四十萬圓、薑二十萬圓、野蜀葵十五萬圓、葱頭五萬圓、百合四萬圓、薤三十萬圓、白菜、休菜、菘類五十萬圓等多額の生産である、其仕向地は東京、横濱、關西方面である。

生産者	
連根	君津郡木更津町
葱頭	千葉郡生濱村
白菜	同 千城村
同	同 二宮村
人参	同 都賀村
同	同 二宮村
同	同 津田沼町
菠薐草	同 二宮村
同	同
百合	山武郡公平村
大和芋	同 土氣本郷町

石川 鐵之助
大堀 とさ
内海 安造
小川 喜之助
作草部 蔬菜組合
森田 長松
伊藤 虎之助
森田 長松
森田 力松
公平村 農會
土氣本郷町 農會

落花生 同 白里村
芽芋 市原郡菊間村

白里村 農會
若宮 出荷組合

◎栗 年産額 二十萬圓
從來印旛郡地方は土地廣く栗の生産あり、成田山新勝寺に於て料理用に供せし等（成田栗ヨーカン）は是れより起る）需要多かりしも、當時は比較的収益少なりしたため伐木するものがあつた、其後栗の價格昂騰するに伴ひ、各地に栽植を試みるものが増加して産額漸次増加し、縣内の外東京方面に移出せらるゝに至つた。

生産者 千葉郡譽田村 大塚 時藏
市原郡養老村 馬立 利助

◎椎茸 年産額 壹萬圓
氣候は椎茸の發生に適し、單に天然生のものを採種するに過ぎなかつた、十數年前靜岡縣の者が君津郡にて栽培を試み好成绩を得たるため附近に普及すると共に、一面縣の指導獎勵により漸次各方面に普及し、生産亦激増の傾向である。從來より生の儘東京方面に仕向けらる。

生産者 市原郡里見村

椎茸 蔬菜培養組合

◎果樹苗木 年産額 五萬圓

果樹苗として各種のもの植栽又は播種せらるゝも、特に知られたるは東葛飾郡八柱村にて創めて育成せられたる梨廿世紀、大柏村の石井早生及枇杷(田中、茂木、福壽院)等である。

生産者

- 東葛飾郡八柱村大橋 綿果園 松戸覺之助
- 安房郡九重村 駱川喜太郎
- 東葛飾郡大柏村 石井兼吉
- 同 川間村 柳常八

◎苗木盆栽類 年産額 百二十萬圓

庭園用有用樹類は種類豊富にして克く育ち、農家又娯樂的に或は宅地利用のために栽培すること多く、從來遠く關西方面に迄供給し産地として知られたるが、近時需要の増加と共に栽培すること漸く盛となり、經營又組合を組織し共同によるもの多く、益々其の産地として知らるゝに至る。殊に生産の大部分が副業的なるを以て品質優良にして病虫害も少く健全なるを以て喜ばれて居る。主なる仕向地は東京、埼玉方面の外關西方面である。

生産者

- 同 匝瑳郡須賀村 穴澤九藏
- 同 大木一郎

同 平和村

同

同

同

東葛飾郡川間村

君津郡長浦村

- 椎名庄太郎
- 椎名六兵衛
- 椎名有隣
- 椎名勘兵衛
- 柳常八
- 阿津政吉

◎鯉節類 年産額 百二十萬圓

縣下に産する節類は、主として此地鯖節、惣太節、鯖節、鰯節等を産す。其の起源は遠く享和年間(今より百二十餘年)紀州の人與市なるもの安房國に來り其の製法を傳へたるに創まり、爾來漸次發達し安政万延より元治慶應を経て明治に至る間、縣下一般最も隆盛を極めたるも、明治二十年以後鯉漁不振其他の原因より一時衰頽を來せしも同三十二年以降之れが改良發達に努めたる結果、逐年其の聲價を發揚するに至つた。而して現時に於ける主要なる産地は海上、夷隅、安房の三郡にして販路は京濱其他各縣である。

生産者

- 海上郡本銚子町一五四八 平野真市

鯉節	海上郡本銚子町一五四八	平野岩治郎	
同	同	笠上平八	
鮪節	同	柳藤太郎	
鯉節	夷陽郡大原町	土屋慶藏	
同	安房郡湊村内浦	鎌田政吉	
同	同	杉浦清	
同	同	富川慎治	
同	天津町天津	山村豊松	
同	濱荻	小谷甚左衛門	
小鯉節	同	宮崎村布良	高橋篤
鯉節	同	大海村太夫崎	

◎煮乾鯉 年産額 三百萬圓

煮乾鯉の原料たる鯉の産額は全國に冠たるは人の知る所である。鯉に背黒鯉、真鯉の別あり、本品は主として背黒鯉を原料とし製造するも、近年又真鯉、煮乾を製し、或は鯉を原料と爲す、本品は明治三十五年頃縣に於て愛知縣の製造法を傳へ獎勵せるに起りしも縣下は鯉漁獲の饒多なる爲め、遂に獨特の裝置方法により優品を多産するに至つた。主なる産地は外海又内海沿岸にして、海上、匝瑳、山武、長生、夷隅、安房

及君津の南部にして主要なる販路は京濱及關東、北諸縣、北海道並に京阪地方である。

生産者

匝瑳郡野田村今泉	鈴木彌太郎
山武郡豊海村	鈴木周藏
君津郡竹岡村竹岡四七二	五島竹次郎
安房郡北條町	青木清三郎
同	鈴木庄五郎
同	土岐兼吉
同	西川治三郎
天津町天津二〇	

◎田作 年産額 百萬圓

本品は小形なる背黒鯉を以て製し、其方法の簡易なる爲め古來より行はれたるものにして、所謂九十九里田作は其の名全國に高し、産地は煮乾鯉と同様にして、殊に産額大なるは匝瑳、山武、長生の各郡であつて、販路は東京及關東、北諸縣が主である。

生産者

匝瑳郡野田村今泉	鈴木彌太郎
山武郡豊海村藤の下	小栗山長太郎
同 鳴濱村本須賀	橋本盛男

山武郡片貝村片貝
夷隅郡大原町
山武郡片貝村

高柳直吉
淺野精二
梅野平助

◎削節 年産額 十萬圓

本品は大正五六年頃、本縣水産試験場に於て獎勵せるに創まる、本縣は其の原料たる鯖節、惣太節、鰻節及丸煮乾等の多産する關係上、將來大に發達すべき餘地を有してゐる。産地は煮、乾鰻、田作と同様にして現時最も盛なるは夷隅、山武兩郡とし、販路は東京及近縣である。

生産者 山武郡豊海村

鈴木周藏

夷隅郡大原町八、四二〇

淺野精二

同 御宿町

池田喜代松

◎鹽乾魚類 年産額 二百萬圓

本品の原料は鰻、鯉、鯖、秋刀魚等の開乾、串乾、丸乾を主とし、其他小鯛、魴、鰯、鰈、河豚、鰻等種類頗る多し、主に本縣外海方面に於て製造し京濱及近縣に販賣せらる。

生産者

開乾 安房郡富崎村相濱一八九

鹽崎由松

開乾 安房郡富崎村相濱三一八

山田久作

開秋刀魚 同 江見村

河名芳三

同 同 湊村小湊一一七

吉野松次郎

同 同 天津町一、八四二

工藤長之助

開秋刀魚 同 和田町

根本金治

同 同

内藤伊勢松

開乾 同 富崎村布良

小谷甚左衛門

◎乾貝 年産額 五十萬圓

本品は蜆、蛤、小馬珂貝、大野貝等の剝身散乾又は串乾にして本縣東京灣沿岸地方に於て古くより行はれるも、近來貝類養殖事業の發達に伴ひ、其の製造を獎勵し漸次産額を増加するに至つた、主なる産地は千葉郡市、市原及君津郡とし、販路は東京及近縣である。

生産者

乾 同 千葉縣檢見川町

檢見川漁業組合

同 同

稻毛漁業組合

同 同 蘇我町

今井漁業組合

乾鯛及串鯛蛤 千葉市寒川二八八 増田 あさ
 乾鯛及串鯛 市原郡八幡町 岩田 直吉
 串 鯛 同 五井町 田中 保

◎末廣鰻鱈類 年産額 二十萬圓

本品の原料たる眞鰻は近年殊に豊漁なるのみならず、鱈の如きも其の漁獲高大なるを以て當局に於て數年前より大に之れを奨励せる結果、外海沿岸漁村に於ける家庭副業として逐年其の産額を増大し、且雷に鰻、鱈のみに止らず、各種の味淋乾又は櫻乾等を製造するに至つた、將來益々發達の趨勢に在り、主なる産地は山武、夷隅、安房の各郡にして、主として東京に輸送販賣せらる。

生 産 者
 未廣鰻 匝瑳郡野田村今泉 小川 海平
 同 山武郡鳴濱村作田 作田 梅松
 同 片貝村片貝 高柳 直吉
 櫻 乾 安房郡天津町天津 宮川 慎治
 未廣鰻 同 和田町和田 庄司 又吉
 未廣鰻 山武郡上堺村 伊藤 正吉

◎鯉鹽辛 年産額 五萬圓

鯉鹽辛は相當古くより行はれ、製法の進歩せる爲め、其の香味に於て他地方産に優るは既に定評がある。現今は主として瓶詰と爲し、廣く各府縣に販賣せらる。

生 産 者
 海上郡銚子町 笠上 平八
 安房郡湊村小湊 松本 國藏
 同 天津町天津 富川 慎治
 海上郡本銚子町 竹中 作次郎
 同 夷隅郡豊濱村部原 柳藤 太郎
 江澤 長四郎

◎燻製秋刀魚 年産額 一萬圓

秋刀魚は古來有名にして、古來單に鮮魚、塩魚又は開乾として販賣せられたるも、大正の初より水産試験場に於て歐米の製法に倣ひ製造試験をなし、燻製として適當なるを認め、爾來奨励の結果漸次本品の生産を見るに至り、一般嗜好品として益々需要の増加と共に發達を來し、現今産地は安房郡にして主として、東京に於て售賣せらる。

生 産 者 安房郡江見村 河 名 芳 三

◎佃 煮 年産額 五十萬圓

本品の原料は蜆、蛤、蝦、ハゼ、海苔等で、殊に近年蜆、蛤等の養殖事業の發達に伴ひ、此種佃煮及時雨煮の生産を増加するに至る。而て縣下内灣沿岸各郡市に於て製造販賣せらるゝも、主なる産地は東葛飾、千葉、君津各郡とし、販路は主に京濱及關東並諸縣である。

生 産 者

蜆及ハゼ佃煮

君津郡木更津町木更津

石川 松太郎

佃 煮

千葉郡生濱村濱野

須藤 倉藏

◎魚貝及果實罐詰並に瓶詰類 年産額 百萬圓

罐詰の種類は水産物では、鯷、秋刀魚、鰹、鯨、拳螺、鰻、北寄貝、大和煮、蛤蜊、時雨煮、海苔、佃煮等で、陸産物は枇杷、洋桃、櫻桃、梨等の甘露煮及之等果實の瓶詰とす。本品は日清戦役後起業せられ、日露戦役當時より漸次發達した。産額大なる地方は海上郡、東葛飾郡及千葉郡とす、販路は京濱及山間諸縣が主である。

生 産 者

秋刀魚大和煮罐詰

海上郡本銚子町

明石 傳七

同

同

田邊 徳太郎

同

海上郡本銚子町

木内 源藏

秋刀魚及鰹大和煮罐詰

同

田中 徳治郎

秋刀魚大和煮罐詰

同

伊豆 伊三郎

秋刀魚大和煮罐詰

同

齋藤 重藏

秋刀魚及鰹大和煮罐詰

同 銚子町

信田 猪五郎

果實甘露煮燻詰

同 千葉郡津田沼町鷺沼二

笠上 平八

枇杷罐詰及罐詰

千葉郡津田沼町鷺沼二

村山 教

枇杷罐詰及罐詰

安房郡富浦村

大古 道太郎

◎鱸、鯷、粟漬 年産額 八萬圓

本品は原料が豊富で新鮮なると、製造業の起原亦比較的古き爲め技工の進歩せる點に於て特産と稱するを得可く、現今では奨励の結果、縣下各地に生産するも主要なる産地は海上郡及千葉市とし、販路は東京を主とし又縣内及近縣に移出版賣せらる。

生 産 者

小鱸及鯷粟漬

千葉市寒川五一五

山田 要七

小鱸粟漬

同

三六〇

渡邊 藤四郎

◎魚貝煎餅 年産額 二萬圓

本品の原料は鯛、蝦、蛤、鯛等にして、本縣外海及内灣に産し殆ど周年製造せらる、其の起原は詳ならざるも明治三十二、三年頃より沿海各地に於て製品するに至り、殊に貝煎餅は内灣千葉市に於て多量産出せられ、主として東京及關東北地方に販賣せらる。

生産者 千葉市市場四一三(豊月堂)

泉谷 森太郎

◎乾海苔其他食用藻類 年産額 三百萬圓

乾海苔の起原は今を距る凡そ八十餘年前(文政年間)武藏大森の人、小糸川口に當る大堀人見部落の村民に笹立法を傳へたるを創始とし、明治三十年以後特に當局の奨勵によつて長足の發達を爲し、現今海苔採取季に於ては内灣沿岸一市四郡は約三十里に互り、笹柵相連るの盛況を呈するに至り、京濱は勿論殆ど全國に販賣せらる、此他内灣に産する於胡菜、外海方面に産するヒジキ、ワカメ、ハバノリ、アオノリ等は各期節に於て相當の收獲あり、之を加工して東京並に近縣各地に販賣せらる。

生産者

乾海苔 君津郡木更津町

渡邊 文吉

於胡菜 同 檜葉村

茂木 傳次

同 同

長谷川 留吉

文化ヒヂキ

夷隅郡御宿町

池田 喜代松

青海苔

長生郡一松村

片岡 忠次郎

晒天草

安房郡太海村太夫崎

高橋 篤

乾海苔

市原郡千種村青柳

六崎 芳藏

於胡菜

君津郡檜葉村

奈良輪 漁業組合

◎養殖貝類 年産額 二百萬圓

東京灣沿岸一帯は蛤、蜆、馬珂貝等の養殖に適し、明治二十二、三年の頃之れ等貝類の移殖を開始し、當局の奨勵により逐年發達を來し、現今殆ど同沿岸地先各浦々に行はれ、産額亦漸次増大せり、而して之等貝類は殻付の儘京濱及近縣は勿論遠く京阪地方に移出せられ、又剥身として同様各地に販賣せらる。

生産者

養殖蜆 市原郡八幡町

八幡五所 漁業組合

同 千葉郡檢見川町

稻毛 漁業組合

養殖蛤 市原郡千種村

青柳 漁業組合

同 千葉市登戸

關 正一

賜天覽

於平和紀念東京博覽會銀牌受領
於農商務省陳列館品評會金牌受領

籐表並ニ
原料一式
傘柄卷籐

千葉縣銚子町

安藤清三郎商店

電話銚子二四三番
振替東京二二八八八番

詳細は御照會次第速報す

月刊
雜誌

副

業

定價

金參拾五錢

▽副業研究の機關誌

▽副業經營の好資料

發行所

東京麴町區内山下町
振替東京三六六〇番

日本產業協會

東京府

◎注連飾 年産額 四萬八千圓 從業戶數 二百八十戶
南葛飾郡奥戸村、南綾瀨村、龜青村、本田村、南足立郡東淵江村に於て生産せらるゝものなれども其の起源甚だ詳ならず、今より百餘年前既に「前垂」と稱する種類のもの製作せられつゝありしを知るのみ、販路は東京市内を主とし、近縣地方及北海道、關西に及ぶ、種類多様にして、悉く記載し得ざるも午莠、大根、玉飾、寶船、上輪、前垂、板卷、林棒等は普通のものである。

◎繩 年産額 五萬五千圓
從來各郡共之れを副業唯一のものとして行ひ居たるも、都市の發展に伴ひ、隣接郡部に於て漸次其の生産減少し、南足立郡の一部南葛飾郡の一部及三多摩郡地方が稍々盛大であつて、其他は寧ろ專業的に市内外に發達して居る、之れ製繩機の改良發達せしによるのである、副業的生産は多く自家用にして其他は市内に販賣せらる。

◎繩網 (蠶網) 年産額 五千圓
從來南多摩郡由木村、七生村地方に生産しつゝありしが近時日野町、横山村に於ても製作し初めたり、其の起源詳かならざれども、甚だ古きものにあらざるが如し、産額

僅少なるを以て多くは其の地方及隣接町村の養蠶家で使用せらるゝのみである。

◎菘 年産額 二萬五千圓

南多摩郡由井村、由木村、忠生村、南葛飾郡奥戸村、鹿本村、葛西村等に生産せらる。南多摩郡に於ては安政初年頃より行はれたるが如きも其の起源詳ならず。販路は主として八王子市、神奈川縣の一部及東京市内である。

◎御鉢入 年産額 二千圓

北多摩郡調布町の人埼玉縣に於て習傳し自ら附近に傳習したるに始まる、同郡西麻村、南多摩郡鶴川村等は主として同人の指導により開發せられたものである。産額少なきを以て、主として附近の町村に販賣せられ、餘剩のものを僅かに八王子市及東京市に販出して居る。

◎目 籠 年産額 六萬八千圓

主として南多摩郡多摩村、由井村、由木村、鶴川村等に生産せらるゝものにして、嘉永年間由井村に於て之れを創始し、由木村に傳はり漸次傳習して他地方に及んだのである。販路は東京、横濱、八王子を主とし、一部は信州地方、千葉地方より北海道である。

◎花籠類 年産額 四十八萬圓 従業戸數 五十八戸

東京市内及北豊島郡の一部に分布し、主として美術的製品を産しつゝあり、其の主なるものは花籠、炭取、傘立、屑籠等なりとす、其の起源相當に古きも記録なく詳かにせず、販路は東京市を主とし關西及北海道地方である。

◎草 簾 年産額 十二萬圓

享保年間豊多摩郡井荻村に於て初めて栽培製造せられ、爾來普及して同郡高井戸村、野方村、北豊島郡石神井村、北多摩郡三鷹、武藏野、清瀬、久留米、保谷、小平其他の町村に發達し今日に至つたのである。主なる販路は東京市、横濱市を初め近縣地方より北海道である。

◎蜀黍帚 年産額 五萬六千圓

天保年間以前に、既に北豊島郡上練馬村に於て製造せられたるが如く、其の後主として同郡内に普及し、下練馬村、中新井村、大泉村、石神井村等今日尙ほ盛に製造しつゝあり。販路は東京市を主とし、其の他は近村地方に消費せらる。

◎下駄表 年産額 二十萬圓

北多摩郡砧村、北豊島郡下練馬村に於て明治二十年頃初めて棕梠表の製作を始め、爾來各地に普及し、今日は右の外數ヶ町村に亘り、殆ど府下全郡に及べり、其の販路は殆ど東京市内にして僅かに其の一部分を關西方面に販出して居る。

◎紙函類 年産額 六萬圓

南足立郡西新井村に於て主として製造せらるゝものにして、從來該地方は漉返紙の産地として知られたる處なるが、時代の變移に従ひ、數年前より函類の製作を試み、良結果を得て漸く近村に普及せんとして居る、販路は凡て東京市である。

青森縣 苹果

◎富 士 梨

紀州有田 蜜柑

静岡縣 柑橘

指定

東京市神田區連雀町壹番地

今 問屋 鈴木長助商店

各國 果實

電略(ヤマチヨ)又ハ(ス)

振替口座東京一二四五八番

特設 電話 大手四九七〇番の圖三三番

電話

岡山縣 西洋梨

山梨縣 木枇杷

長崎 茂木

大和 西瓜

葡萄、柿、櫻桃

指定